

2-11 生活上での不安や心配

問10 現在、生活の中で不安になったり、心配になったりすることはありますか。(〇は1つ)

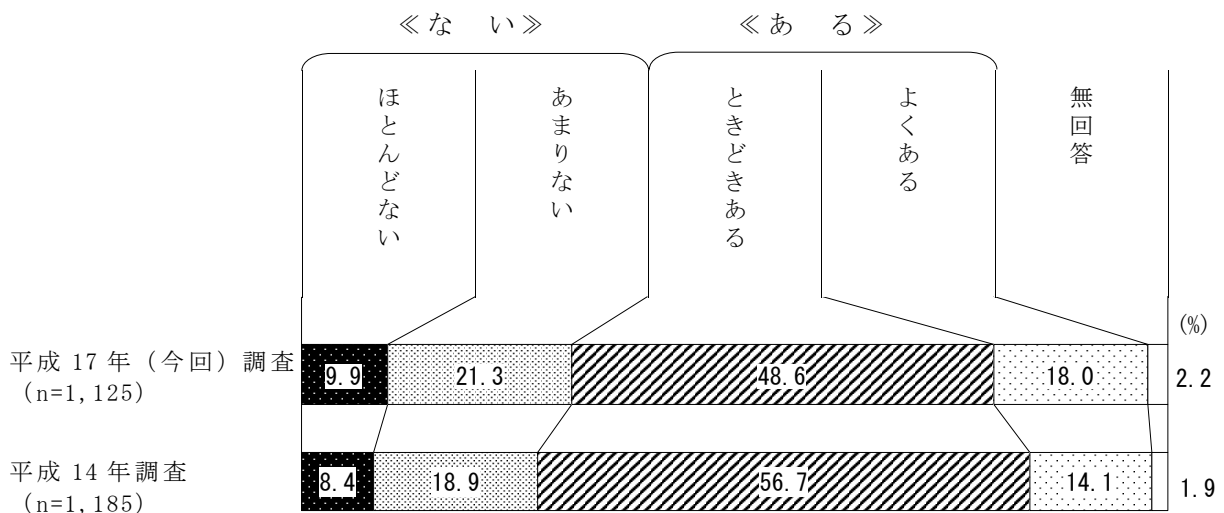
図2-21 生活上での不安や心配



生活上での不安や心配では、「ときどきある」が48.6%で最も多く、これに「よくある」(18.0%)を合わせた《ある》は6割を超える。一方、「ほとんどない」(9.9%)と「あまりない」(21.3%)を合わせた《ない》は3割である(図2-21)。

経年比較でみると、前回調査より《ない》が3.9ポイント増加、《ある》が4.2ポイント減少している。ただし、「よくある」に限ると、3.9ポイント増加している(図2-22)。

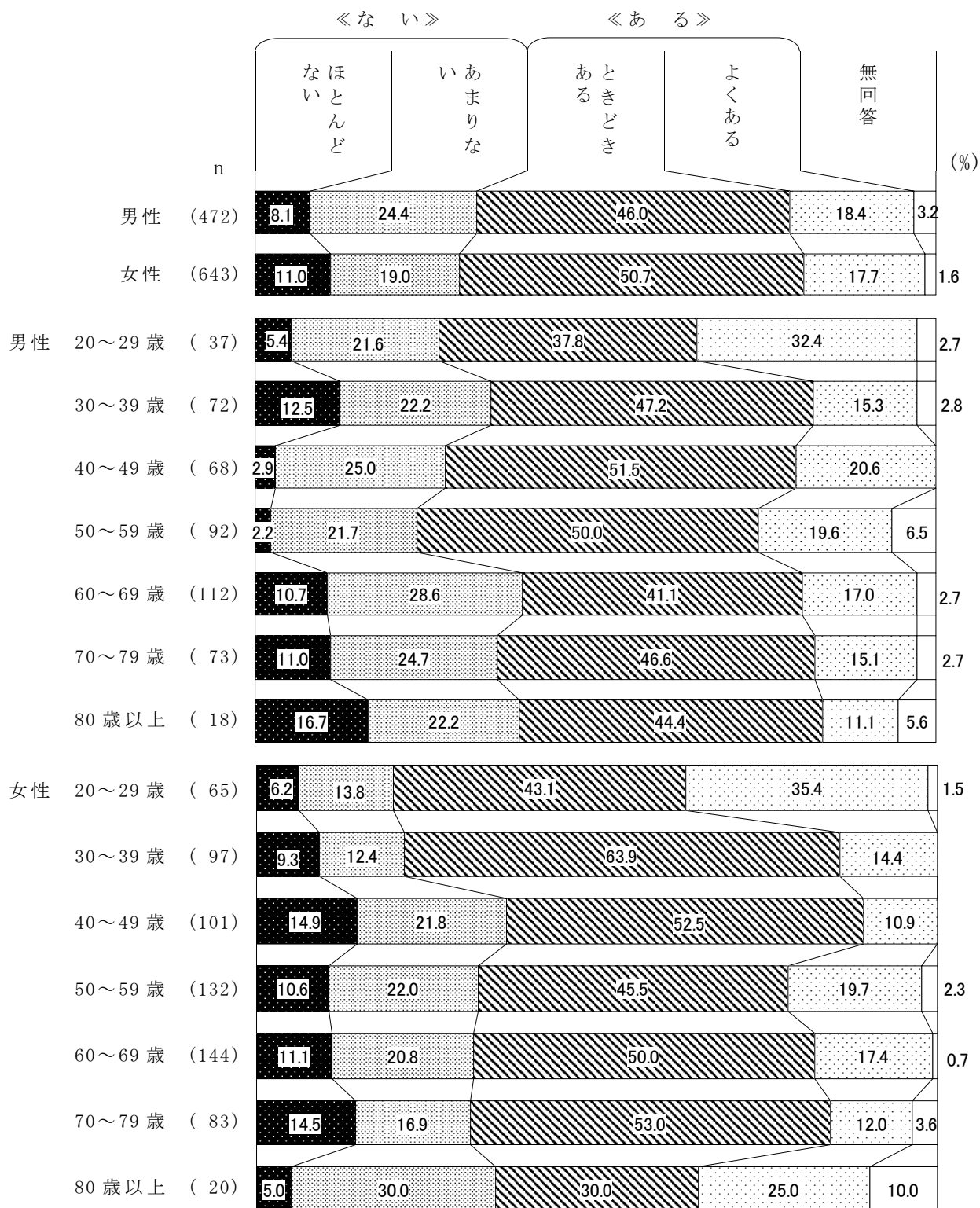
図2-22 経年比較 生活上での不安や心配



性別にみると、《ない》は男性が女性を2.5ポイント上回り、《ある》は女性（68.4%）が男性（64.4%）を4ポイント上回る（図2-23）。

性・年齢別にみると、《ある》は男性の40歳代、女性の30歳代で7割を超えている（図2-23）。

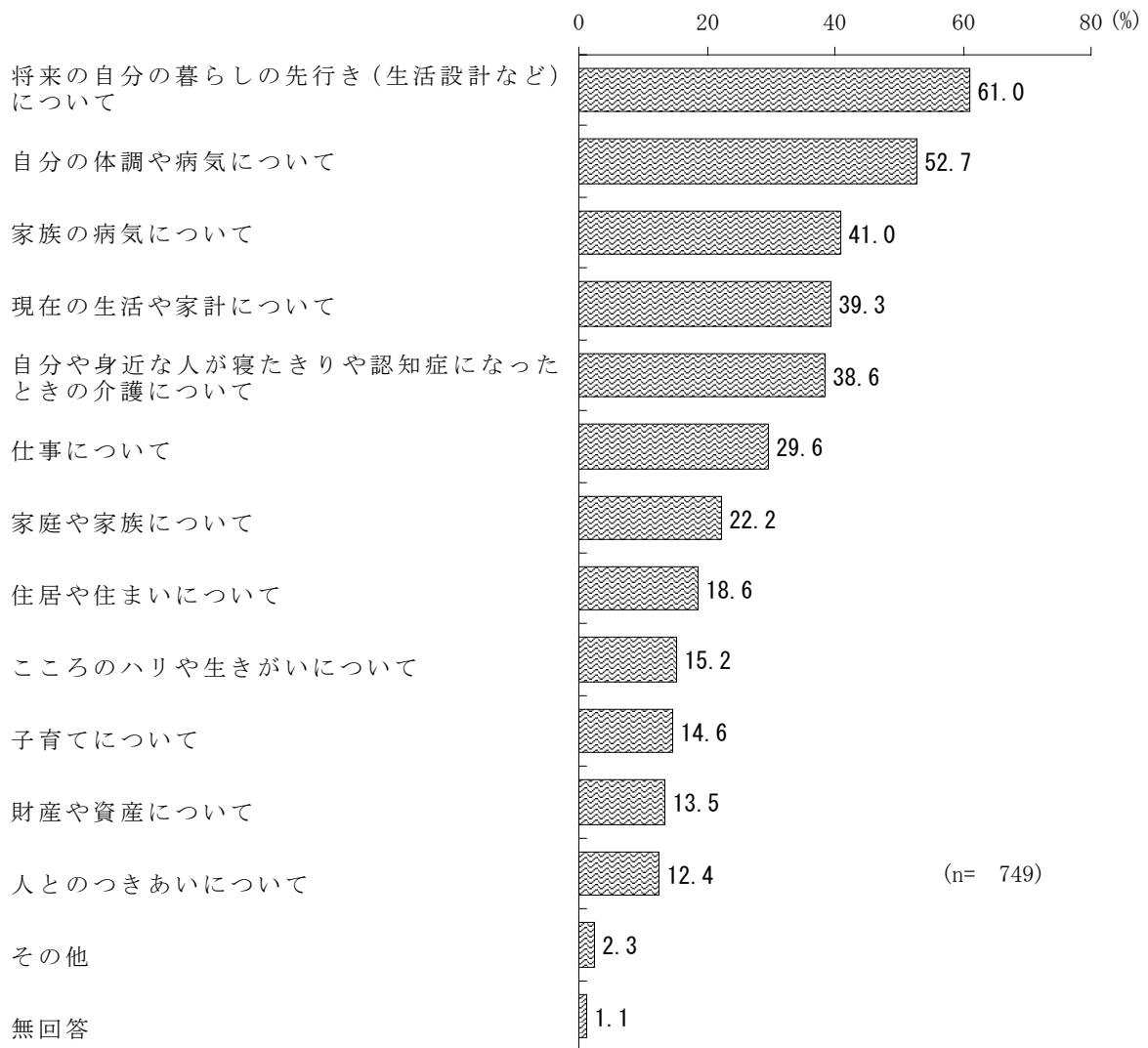
図2-23 性別、性・年齢別 生活上での不安や心配



2-12 不安や心配の内容

【問10で「ときどきある」、または「よくある」を選んだ方におたずねします。】
 問10-1 次にあげた項目のうち不安になったり、心配になったりするの
 はどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図2-24 不安や心配の内容



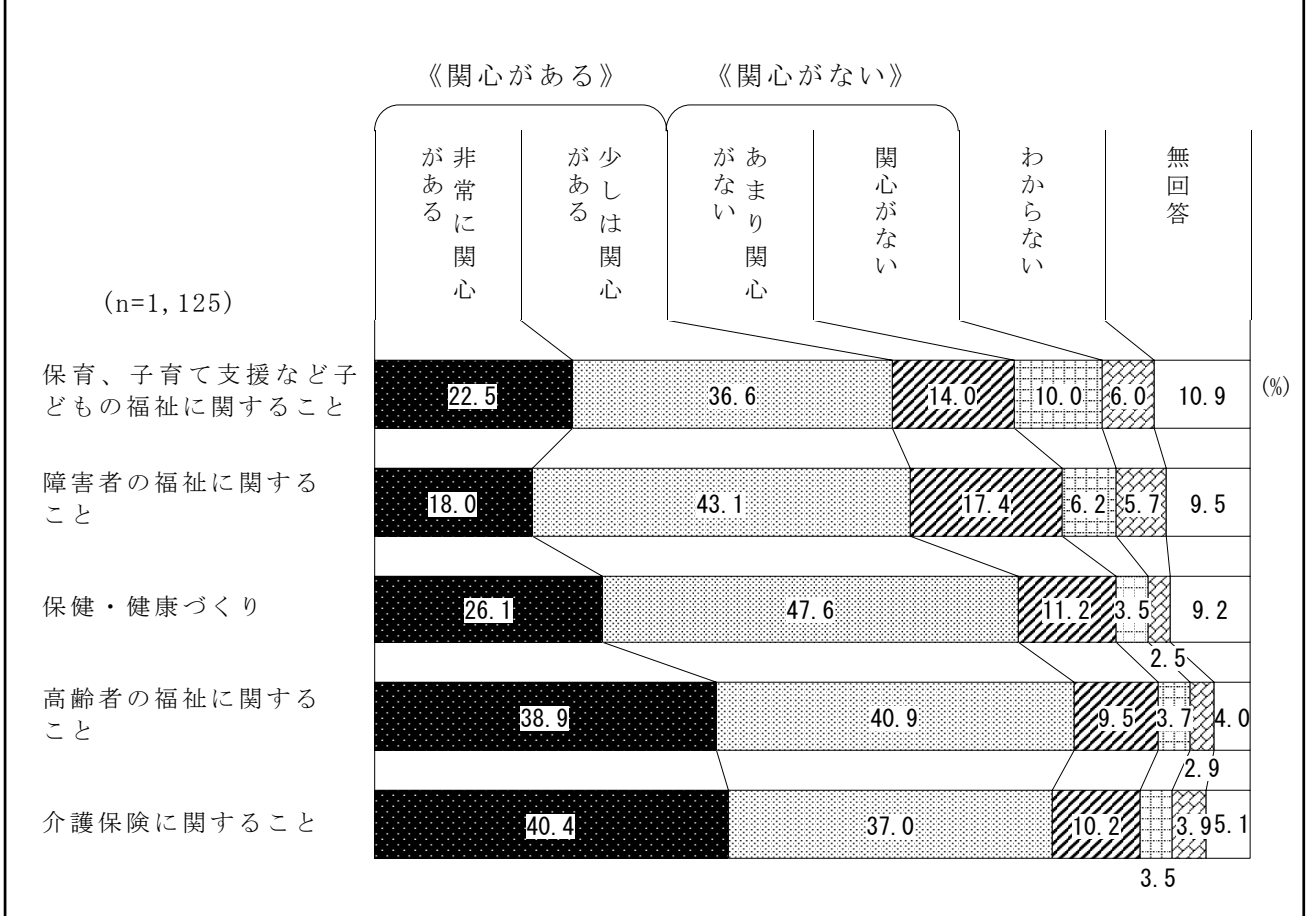
生活上での不安や心配の内容としては、「将来の自分の暮らしの先行き（生活設計など）について」が61.0%と最も多く、次いで「自分の体調や病気について」（52.7%）の順となっており、この2項目が半数を超えている。また、「家族の病気について」（41.0%）や「現在の生活や家計について」（39.3%）、「自分や身近な人が寝たきりや認知症になったときの介護について」（38.6%）が4割前後で続いている（図2-24）。

3. 福祉活動への関心など

3-1 保健・福祉分野の関心度

問11 次の各分野について、あなたの関心度をそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

図3-1 保健・福祉分野の関心度



保健・福祉分野の関心度で、「非常に興味がある」と「少しは興味がある」を合わせた《関心がある》の最も多い項目は“高齢者の福祉に関する事”が79.8%で最も多くなっている。次いで、“介護保険に関する事”が77.4%、“保健・健康づくり”が73.7%となっている。特に“高齢者の福祉に関する事”と“介護保険に関する事”では「非常に興味がある」が4割前後を占めている（図3-1）。

性別では大きな違いはみられないが、性・年齢別でみると、“高齢者の福祉に関する事”と“介護保険に関する事”は男性では50歳代以上、女性では40歳代以上で特に高い（図3-2）。

図3-2 性別、性・年齢別 保健・福祉分野の関心度

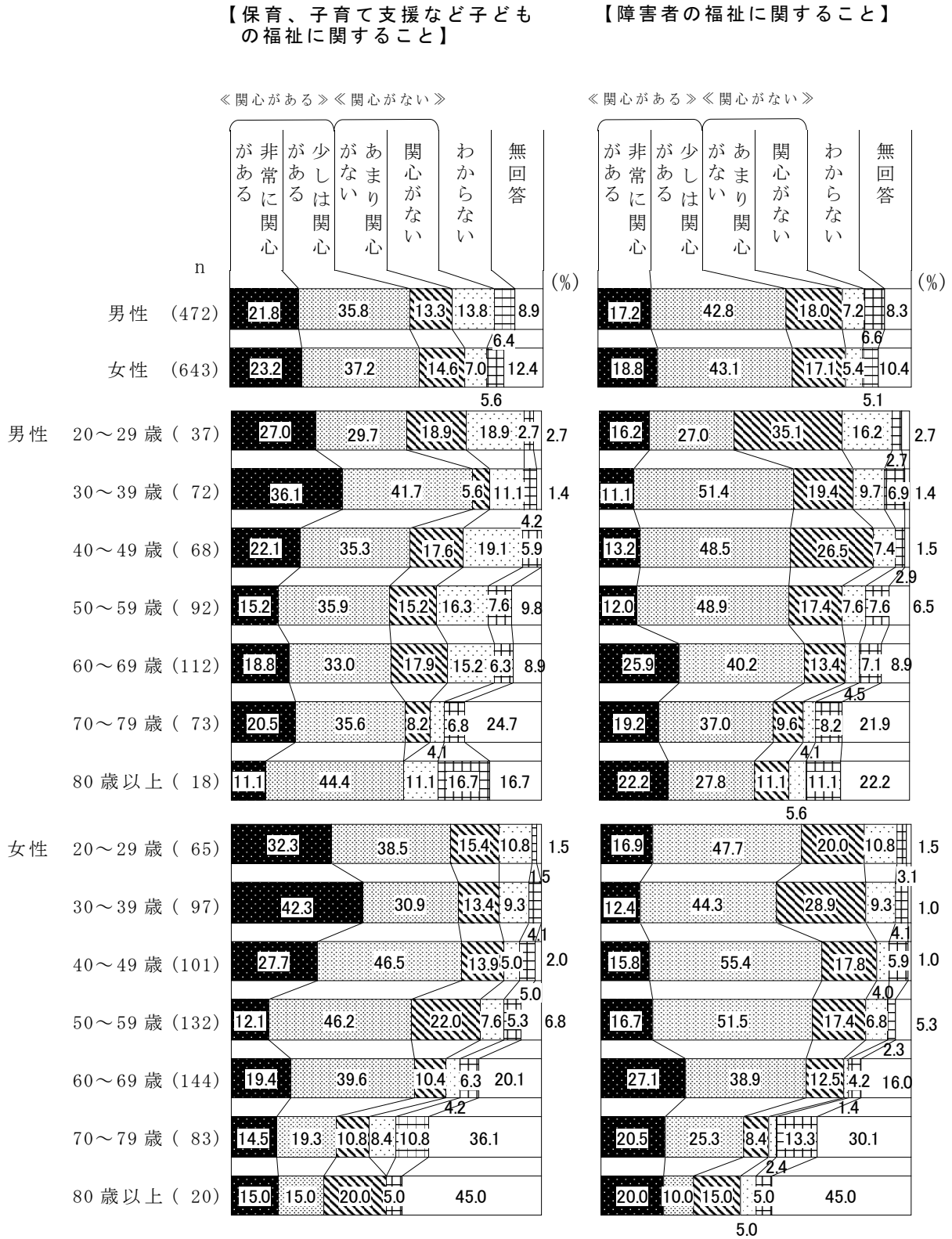


図3-2 性別、性・年齢別 保健・福祉分野の関心度（つづき）

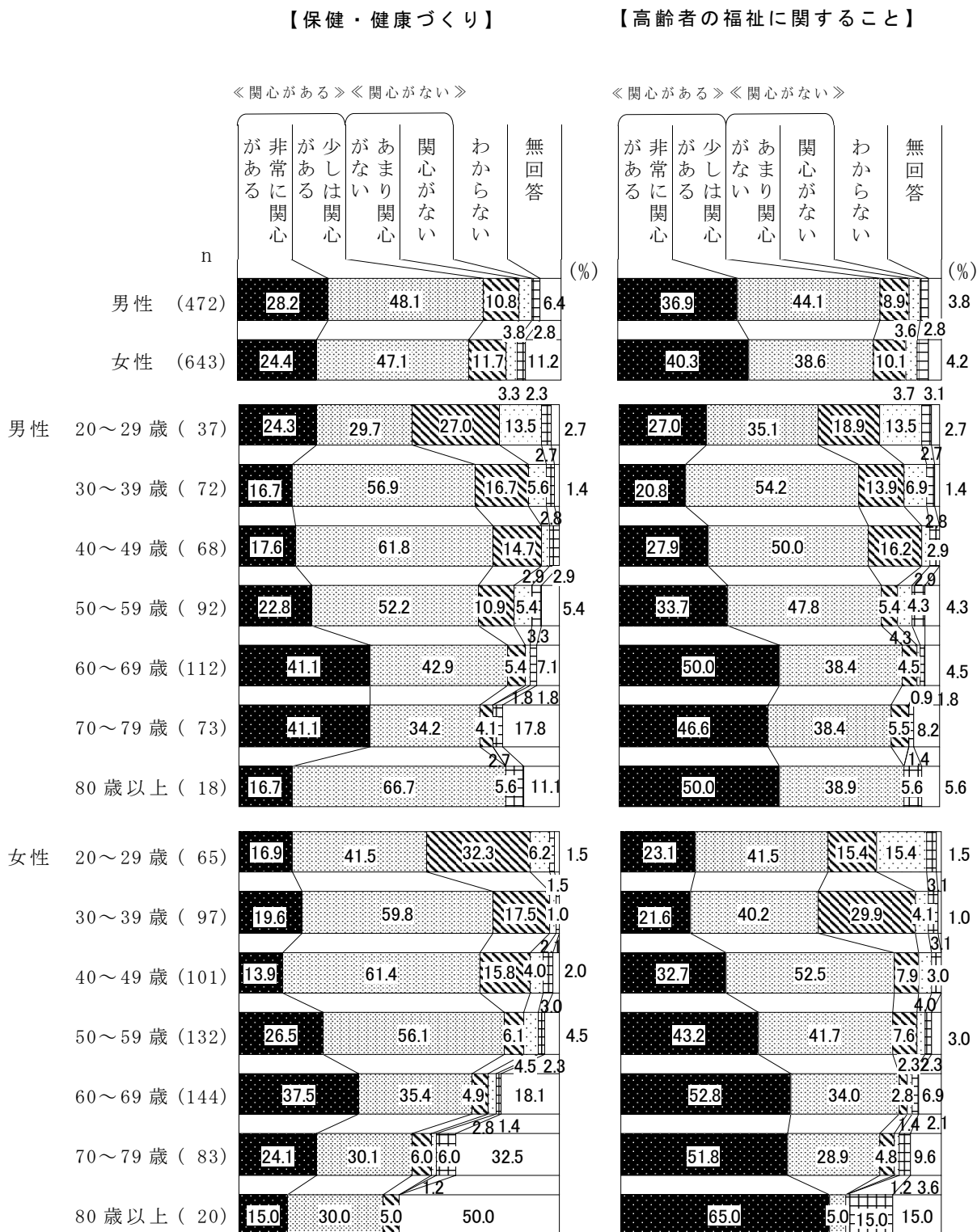
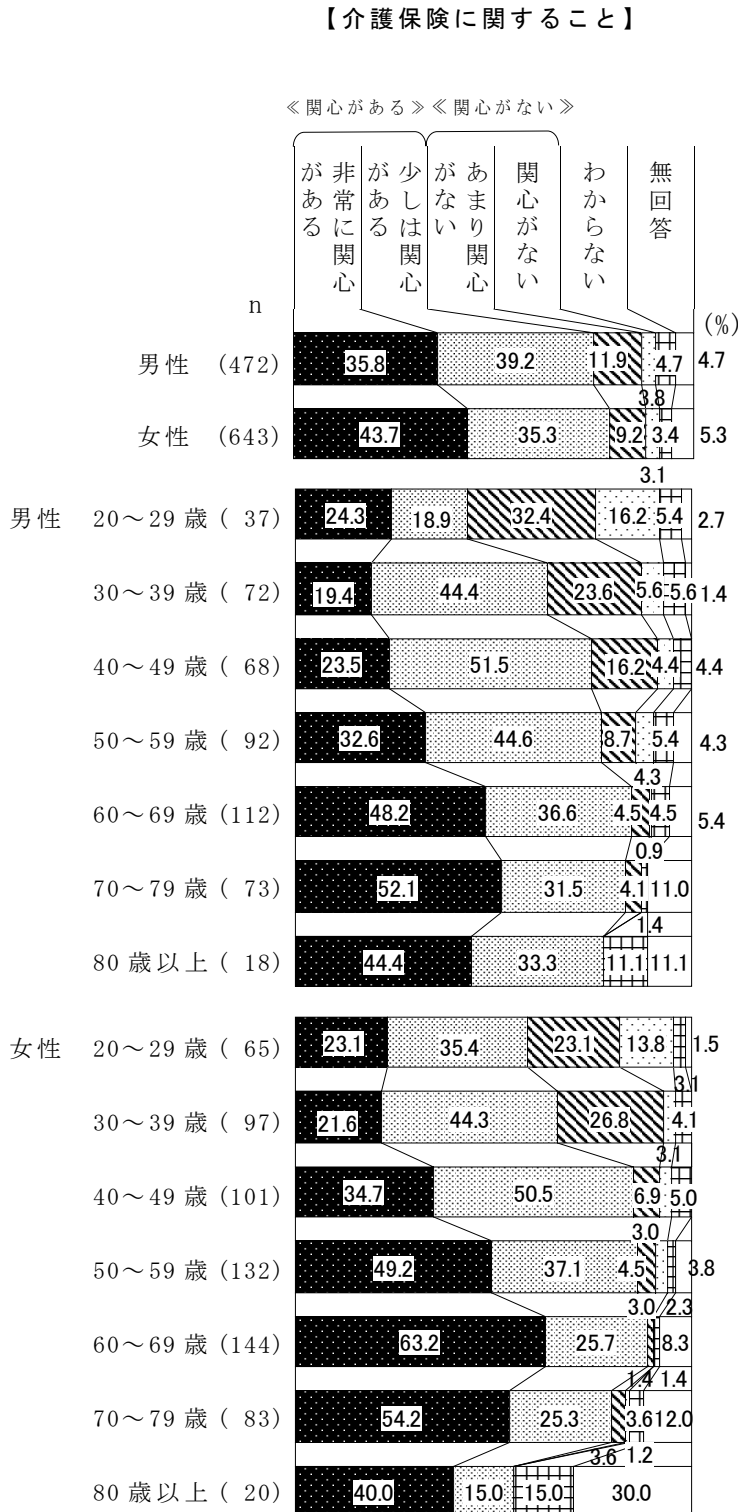


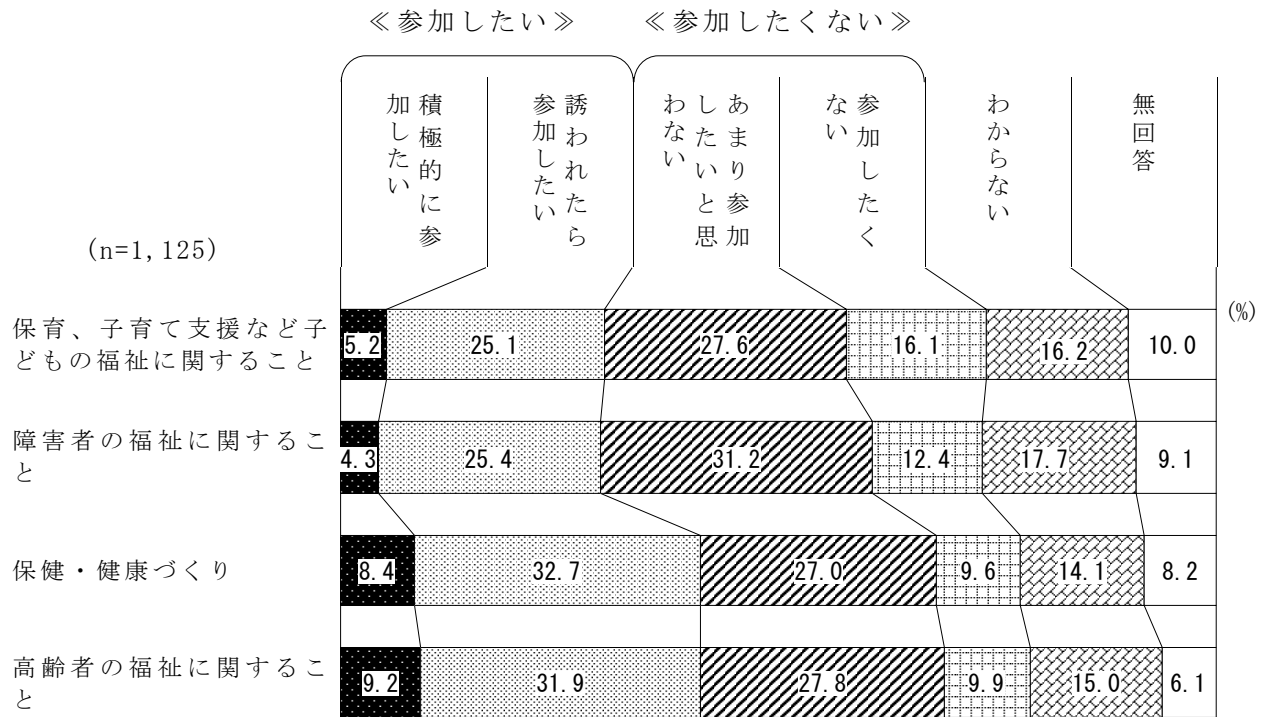
図3-2 性別、性・年齢別 保健・福祉分野の関心度（つづき）



3-2 保健・福祉分野のボランティア活動への参加意向

問12 あなたは、次の分野のボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

図3-3 保健・福祉分野のボランティア活動への参加意向

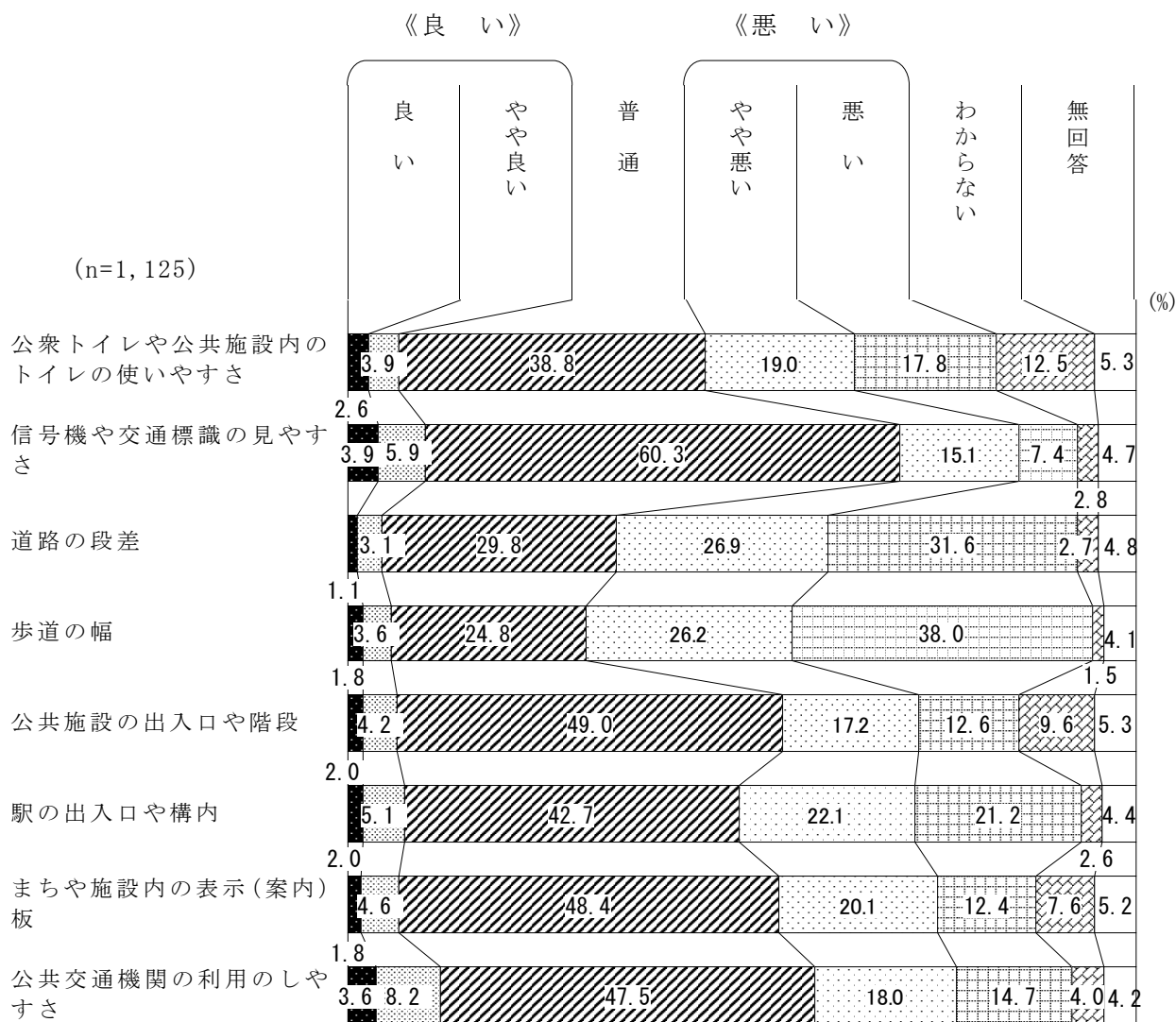


保健・福祉分野のボランティア活動への参加意向について、「積極的に参加したい」と「誘われたら参加したい」を合わせた《参加したい》の割合でみると、“保健・健康づくり”と“高齢者の福祉に関すること”がそれぞれ41.1%と多くなっている。一方、“保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること”は30.3%、「障害者の福祉に関すること」は29.7%となっている（図3-3）。

3-3 市内のバリアフリー状況の評価

問13 誰もが地域で安心して暮らしていけるまちづくりという観点から見て、あなたは、市内の状況をどう評価されますか。各項目ごとに、選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図3-4 市内のバリアフリー状況の評価



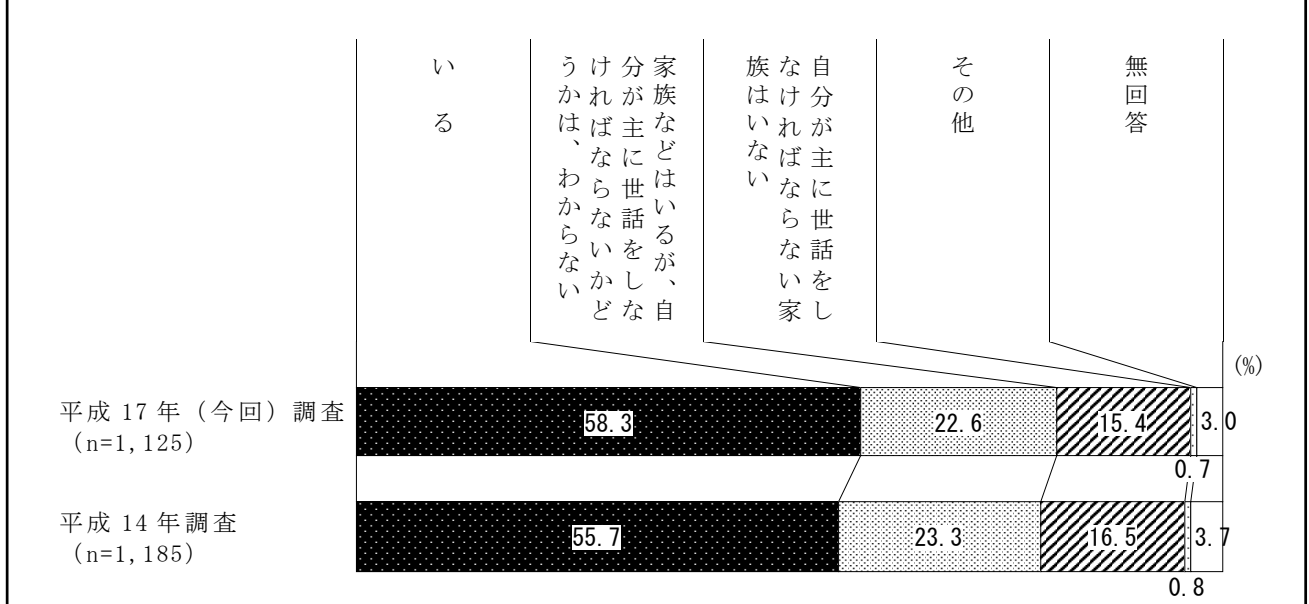
市内のバリアフリー状況の評価は《良い》（「良い」と「やや良い」の合計）という評価は全体的に低く、「普通」が多くなっている。その中で、「公共交通機関の利用のしやすさ」が唯一1割を超える。《悪い》（「やや悪い」と「悪い」の合計）では、「歩道の幅」で64.2%、「道路の段差」で58.5%と特に高くなっている（図3-4）。

4. 介護をする立場になったときの考え

4-1 介護を必要とする家族の有無とその続柄

問14 あなた（または配偶者の方）には、現在または将来、主にあなたが老後の世話をしなければならないと思っている家族などはいますか。（○は1つ）

図4-1 介護を必要とする家族の有無

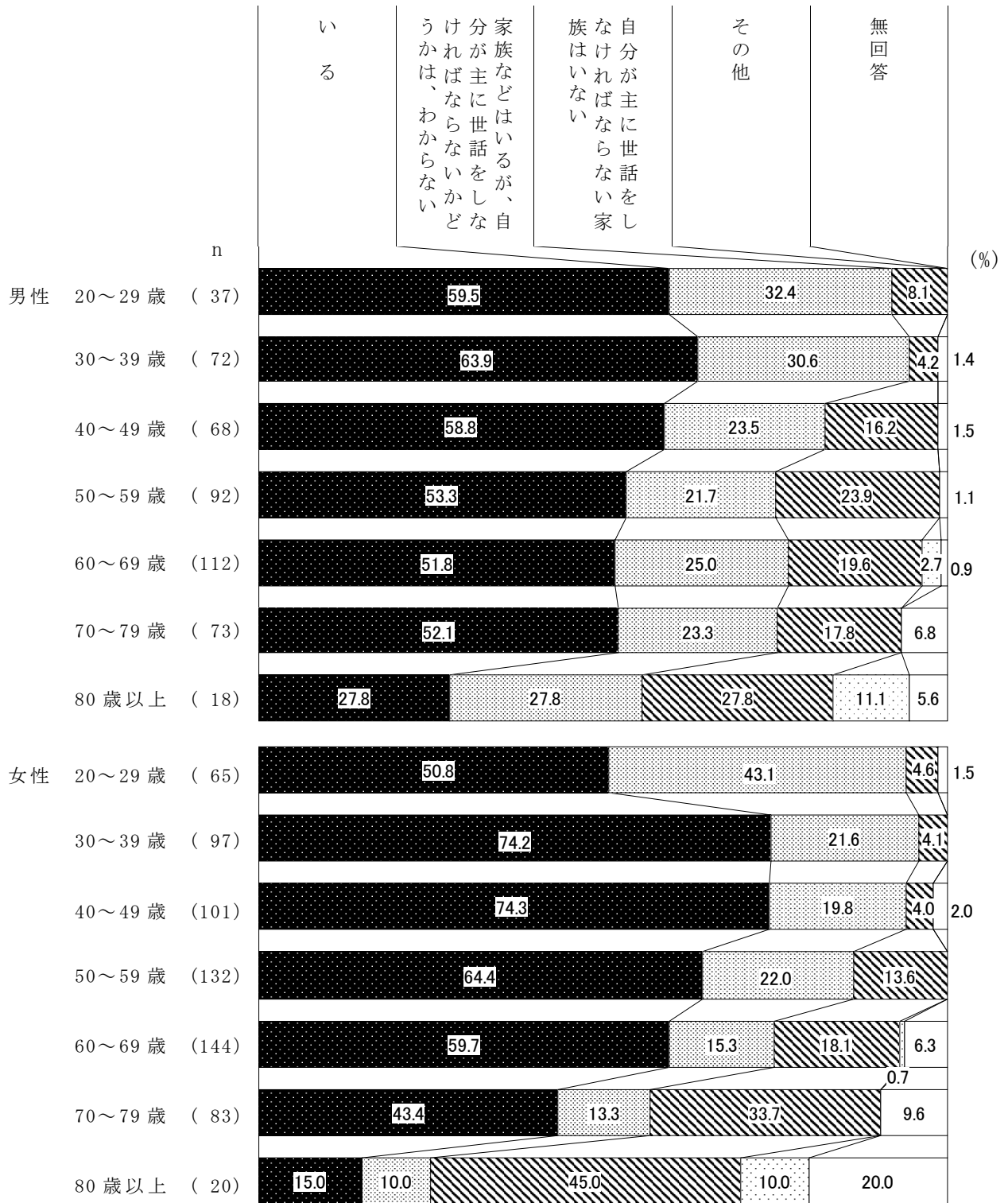


介護を必要とする家族が「いる」人は、58.3%と約6割を占めている（図4-1）。

経年比較でみると、「いる」人は、前回よりやや増えている（図4-1）。

性・年齢別でみると、「いる」は男性では70歳代まで5割以上で共通している。女性では30歳代と40歳代で7割半ばと特に多くなっている（図4-2）。

図4-2 性・年齢別 介護を必要とする家族の有無



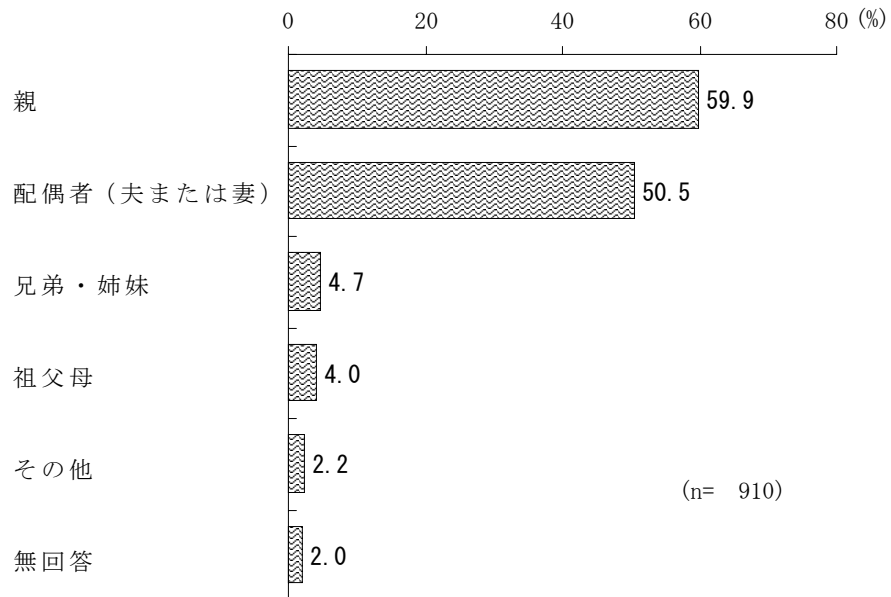
4-2 介護が必要な家族の続柄

【問14で「いる」、または「家族などにはいるが、自分が主に世話をしなければならないかどうかは、わからない」を選んだ方におたずねします。】

問14-1 世話をしなければならない方はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

図4-3 介護が必要な家族の続柄

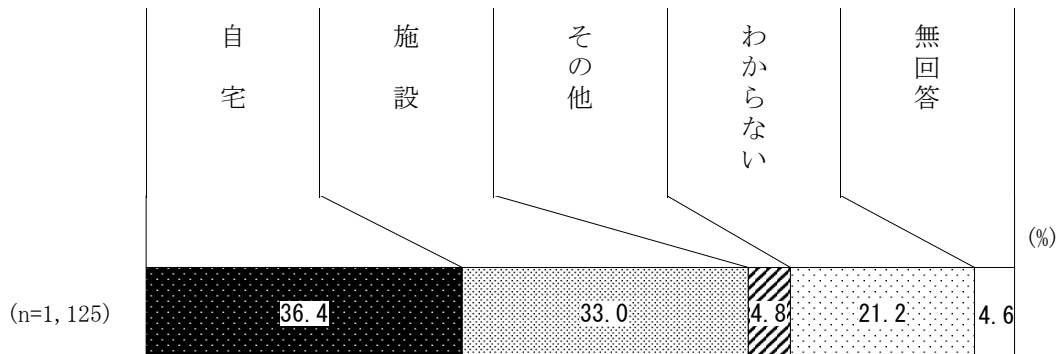


介護が必要な家族がいると回答した人のその続柄では、「親」が59.9%で最も多く、「配偶者(夫または妻)」が50.5%が続いている(図4-3)。

4-3 家族が要介護となった際の介護場所

問15 かりに、あなた（または配偶者の方）の家族が高齢などのために身の回りのことを自分で十分にできなくなったとき、自宅で世話をしたいですか。それとも施設で世話をしたいですか。（〇は1つ）

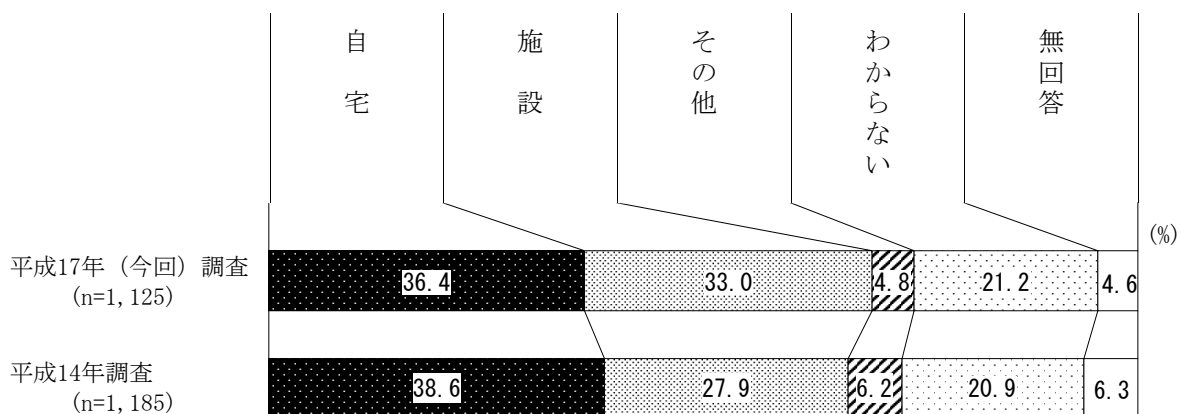
図4-4 家族が要介護となった際の介護場所



家族が要介護となった際に希望する介護場所では、「自宅」が36.4%、「施設」が33.0%とほぼ並んでいる。また、「わからない」(21.2%)人は2割となっている(図4-4)。

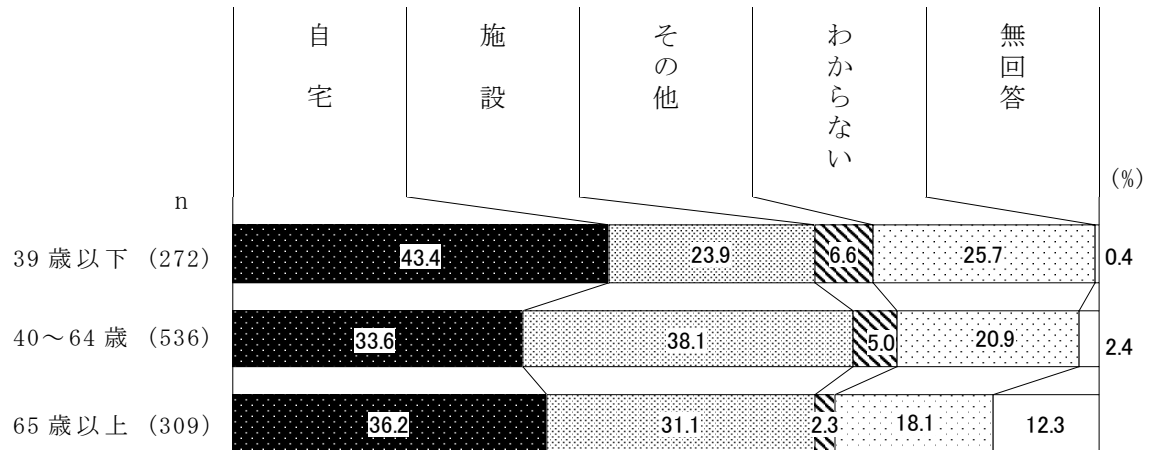
経年比較でみると、前回調査より自宅がやや減少し、施設が5.1ポイント上昇している(図4-5)。

図4-5 経年比較 家族が要介護となった際の介護場所



年齢別（3段階）にみると、39歳以下では「自宅」が43.4%と多くなっている。40～64歳では「施設」が38.1%と「自宅」（33.6%）を上回っている（図4-6）。

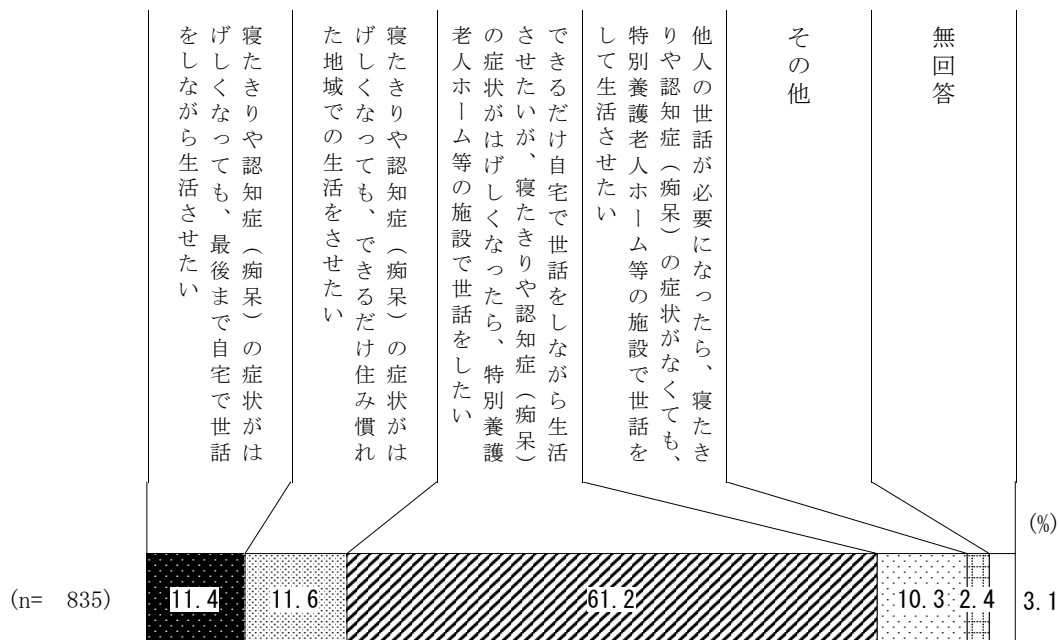
図4-6 年齢別（3段階） 家族が要介護となった際の介護場所



4-4 家族が要介護となった際の対応

【問15で「自宅」、「施設」、「その他」を選んだ方におたずねします。】
 問15-1 具体的には次のどれにあてはまりますか。あなたの今の気持ちに
 もっとも近いものを選んでください。(〇は1つ)

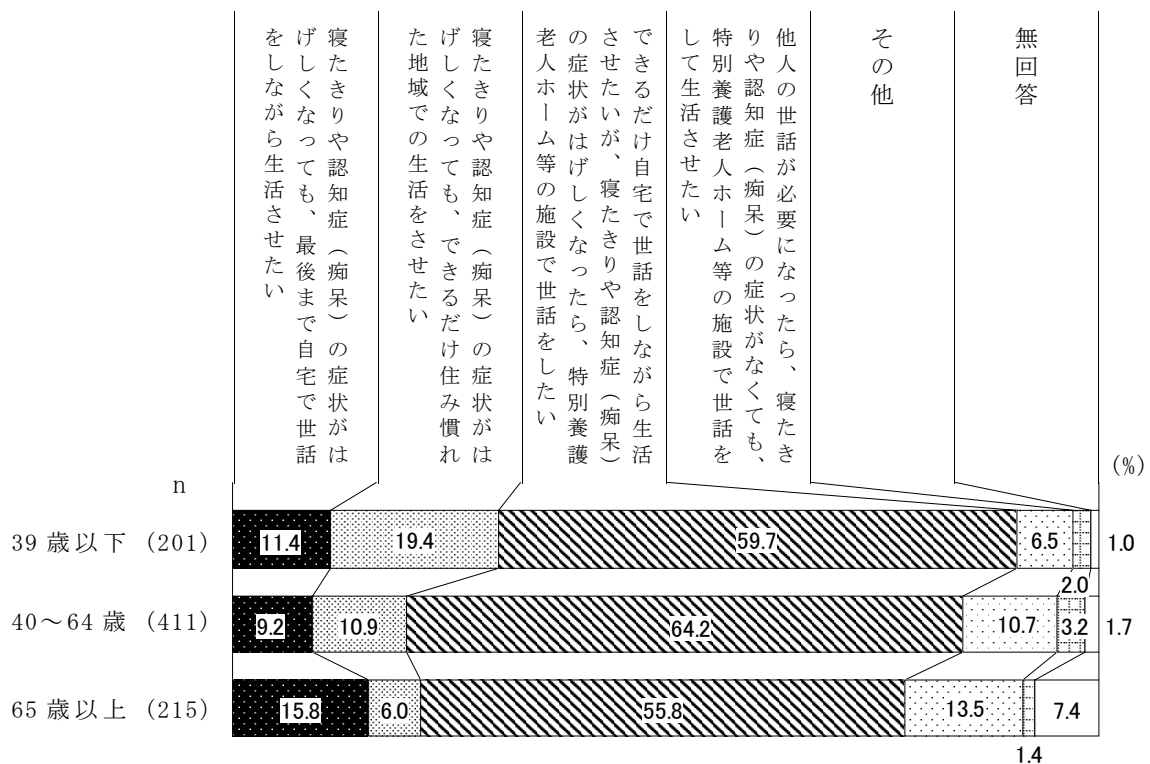
図4-7 家族が要介護となった際の対応



家族が要介護となった際の対応では、「できるだけ自宅で世話をしながら生活させたいが、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなったら、特別養護老人ホーム等の施設で世話をしたい」が61.2%と6割以上を占める。以下、「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、できるだけ住み慣れた地域での生活をさせたい」（11.6%）、「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、最後まで自宅で世話をしながら生活させたい」（11.4%）、「他人の世話が必要になったら、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がなくても、特別養護老人ホーム等の施設で世話をして生活させたい」（10.3%）の3項目は1割強と、ほぼ同率となっている（図4-7）。

年齢別（3段階）にみると、「できるだけ自宅で世話をしながら生活させたいが、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなったら、特別養護老人ホーム等の施設で世話をしたい」はすべての年齢層で過半数となっており、40～64歳では6割半ばを占めている。「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、最後まで自宅で世話をしながら生活させたい」は65歳以上で15.8%、「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、できるだけ住み慣れた地域での生活をさせたい」は39歳以下で19.4%となっており、他の層に比べて比較的高くなっている。「他人の世話が必要になったら、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がなくても、特別養護老人ホーム等の施設で世話をして生活させたい」は39歳以下が1割に満たないが、年齢が上がるにしたがって増加している（図4-8）。

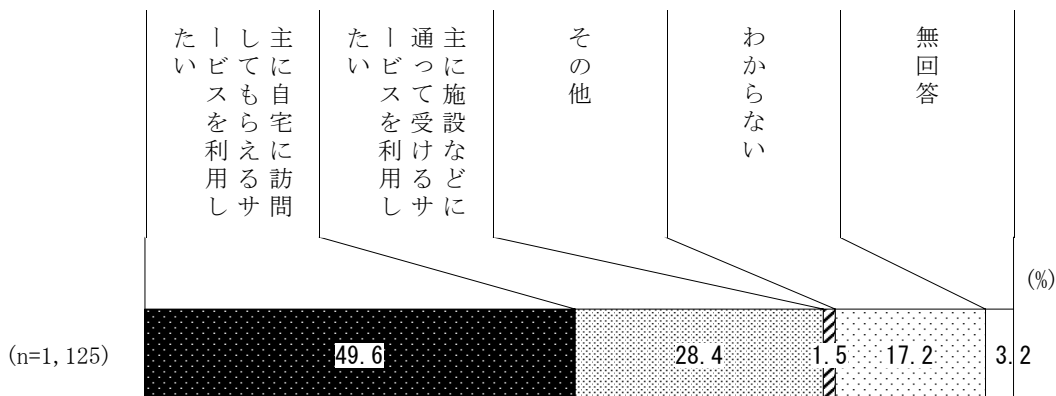
図4-8 年齢別（3段階） 家族が要介護となった際の対応



4-5 自宅で介護する際に利用を希望する介護サービス

問16 自宅で介護サービスを利用する場合、主にどのような種類のサービスを利用したいですか。(○は1つ)

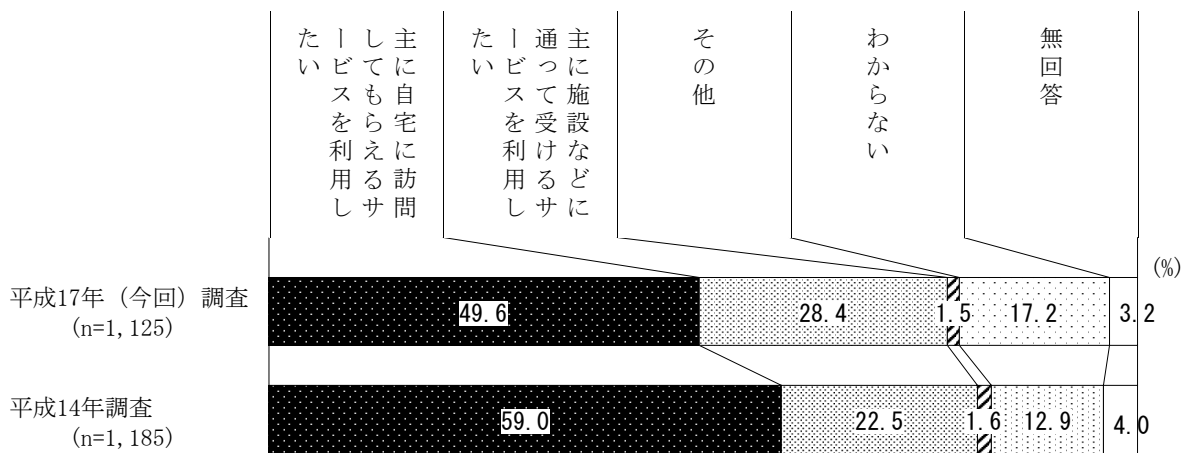
図4-9 自宅で介護する際に利用を希望する介護サービス



自宅で介護する際に利用を希望する介護サービスは、「主に自宅で訪問してもらえたいサービスを利用したい」が49.6%で約半数を占めており、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」は28.4%となっている（図4-9）。

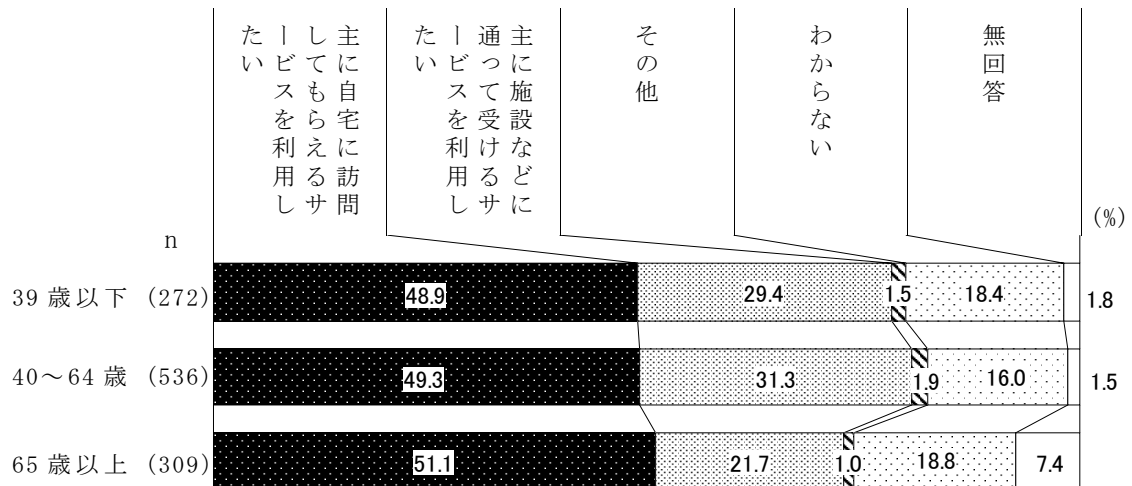
経年比較でみると、「主に自宅で訪問してもらえたいサービスを利用したい」が前回の59.0%から今回の49.6%へと9.4ポイント減少し、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」が前回の22.5%から今回の28.4%へと5.9ポイント上昇している（図4-10）。

図4-10 経年比較 自宅で介護する際に利用を希望する介護サービス



年齢別（3段階）にみると、「主に自宅に訪問してもらえるサービスを利用したい」がすべての年齢層でほぼ半数を占めている。「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」は39歳以下と40～64歳で3割前後と高くなっている（図4-11）。

図4-11 年齢別（3段階） 自宅で介護する際に利用を希望する介護サービス

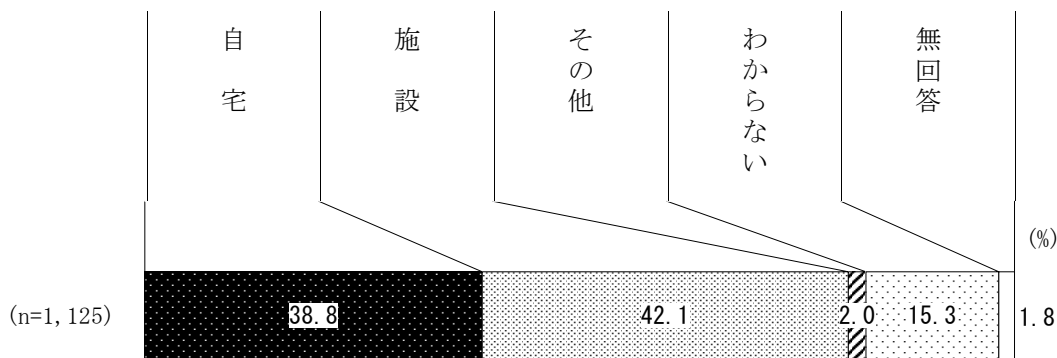


5. 介護を受ける立場になったときの考え

5-1 要介護となった際の介護場所

問17 かりに将来、あなた自身が高齢などのために身の回りのことを自分でできなくなったとき、自宅で世話を受けていますか。それとも施設で世話を受けていますか。

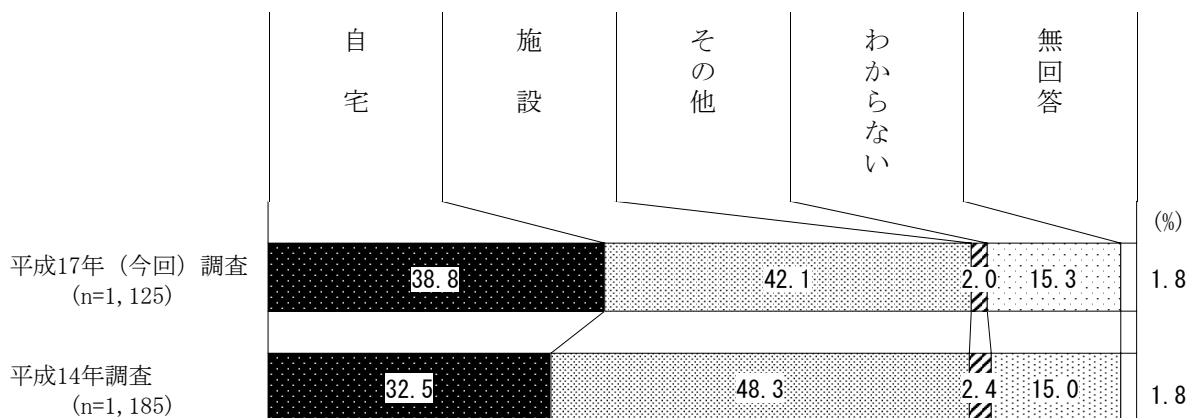
図5-1 要介護となった際の介護場所



自分が要介護となった際の介護場所では、「施設」希望が42.1%、「自宅」が38.8%となっている（図5-1）。

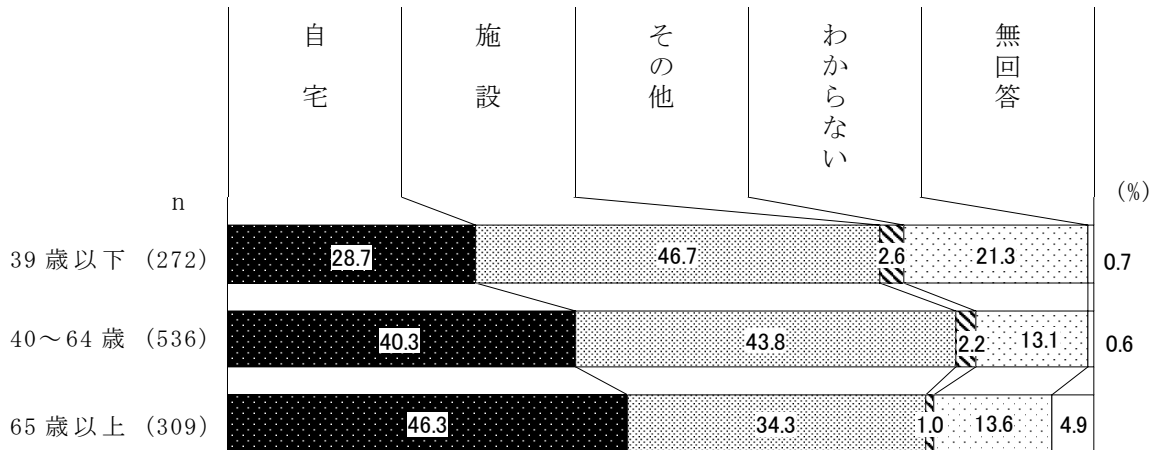
経年比較でみると、「自宅」での介護を希望する人が前回の32.5%から今回の38.8%へと6.3ポイント増え、「施設」での介護を希望する人が前回の48.3%から今回の42.1%へと6.2ポイント減少している（図5-2）。

図5-2 経年比較 要介護となった際の介護場所



年齢別（3段階）にみると、「自宅」は39歳以下の28.7%から、年齢が上がるにしたがって増加し、65歳以上では46.3%となっている。一方、「施設」は39歳以下で46.7%から65歳以上の34.3%へと減少している（図5-3）。

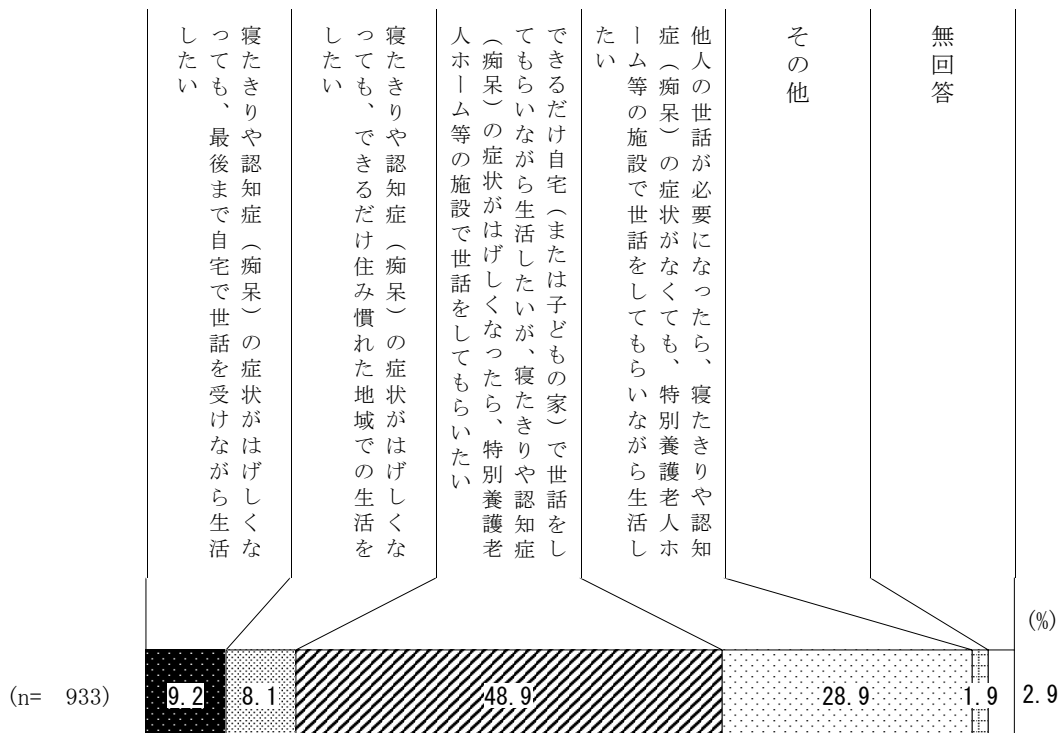
図5-3 年齢別（3段階） 要介護となった際の介護場所



5-2 自分が要介護となった際の対応

【問17で「自宅」、「施設」、「その他」を選んだ方におたずねします。】
 問17-1 具体的に次のどれにあてはまりますか。あなたの今の気持ちにもっとも近いものを選んでください。(〇は1つ)

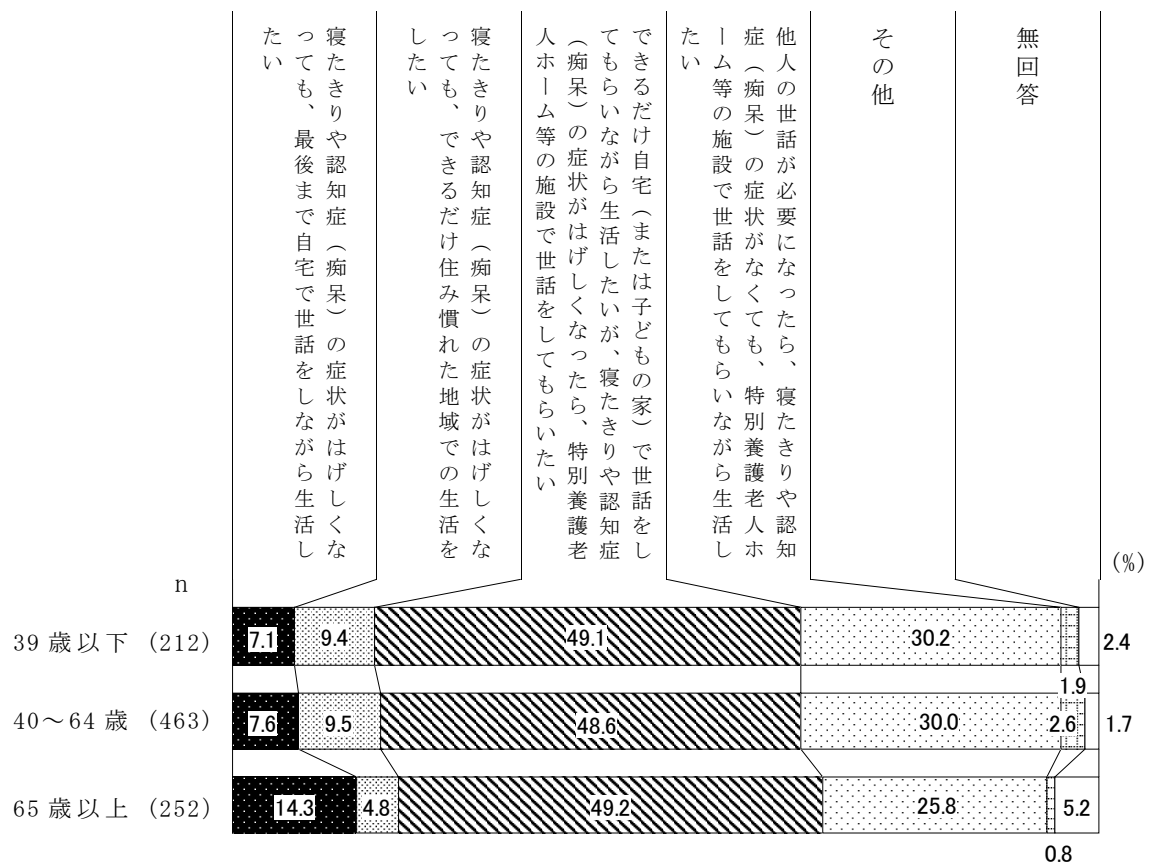
図5-4 自分が要介護となった際の対応



自分が要介護となった際の希望する対応は、「できるだけ自宅（または子どもの家）で世話をしてもらいながら生活したいが、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなったら、特別養護老人ホーム等の施設で世話をしてもらいたい」が48.9%と半数近くを占めている。これに「他人の世話が必要になったら、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がなくても、特別養護老人ホーム等の施設で世話をしてもらいながら生活したい」が28.9%で続き、以下「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、最後まで自宅（または子どもの家）で世話を受けながら生活したい」（9.2%）と「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、できるだけ住み慣れた地域で生活したい」（8.1%）は1割弱となっている（図5-4）。

年齢別（3段階）にみると、「できるだけ自宅（または子どもの家）で世話をしてもらいながら生活したいが、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなったら、特別養護老人ホーム等の施設で世話をしてもらいたい」はすべての年齢層でほぼ半数を占めている。「寝たきりや認知症（痴呆）の症状がはげしくなっても、最後まで自宅で世話を受けながら生活したい」は65歳以上では14.3%と他の層に比べて高い。「他人の世話が必要になったら、寝たきりや認知症（痴呆）の症状がなくても、特別養護老人ホーム等の施設で世話をしてもらいながら生活したい」は39歳以下と40～64歳で3割と高くなっている（図5-5）。

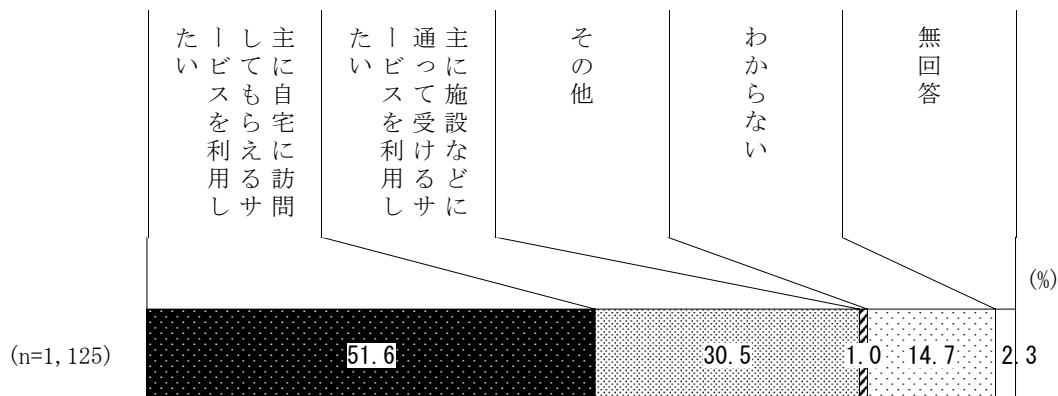
図5-5 年齢別（3段階） 自分が要介護となった際の対応



5-3 自宅で介護を受ける際に利用を希望する介護サービス

問18 かりに、自宅で生活し、介護サービスを利用する場合、主にどのような種類のサービスを利用したいですか。(〇は1つ)

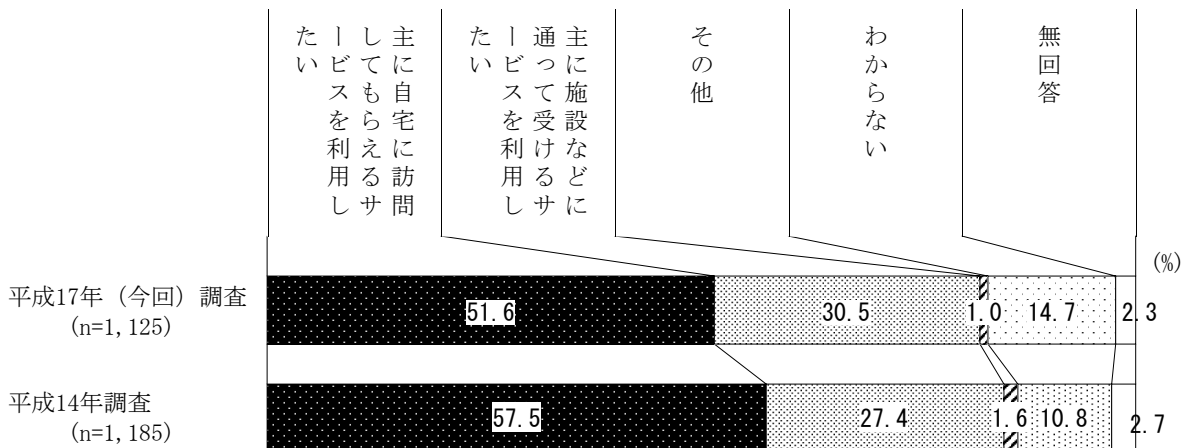
図5-6 自宅で介護を受ける際に利用を希望する介護サービス



自宅で介護を受ける際に利用を希望する介護サービスは、「主に自宅で訪問してもらえたいサービスを利用したい」が51.6%と半数を占めている。次いで、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」が30.5%となっている（図5-6）。

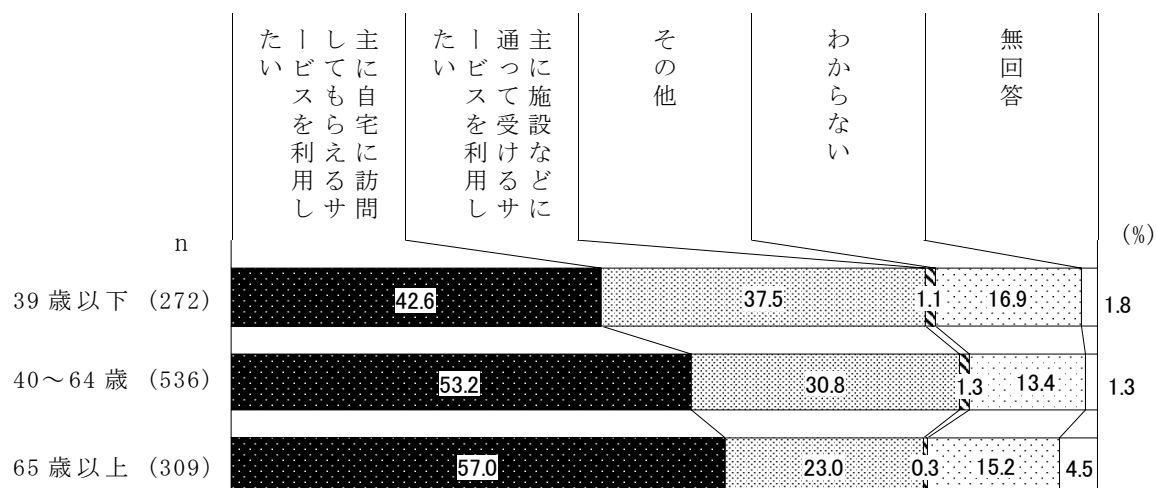
経年比較でみると、「主に自宅で訪問してもらえたいサービスを利用したい」が前回の57.5%から今回の51.6%へと5.9ポイント減少し、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」が前回の27.4%から今回の30.5%へと3.1ポイント上昇している（図5-7）。

図5-7 経年比較 自宅で介護を受ける際に利用を希望する介護サービス



年齢別（3段階）にみると、「主に自宅に訪問してもらえるサービスを利用したい」は、39歳以下の42.6%から年齢が上がるにしたがって増加し、40～64歳と65歳以上では過半数を占めている。一方、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」は、39歳以下で37.5%から年齢が上がるにしたがって減少している（図5-8）。

図5-8 年齢別（3段階） 自宅で介護を受ける際に利用を希望する介護サービス

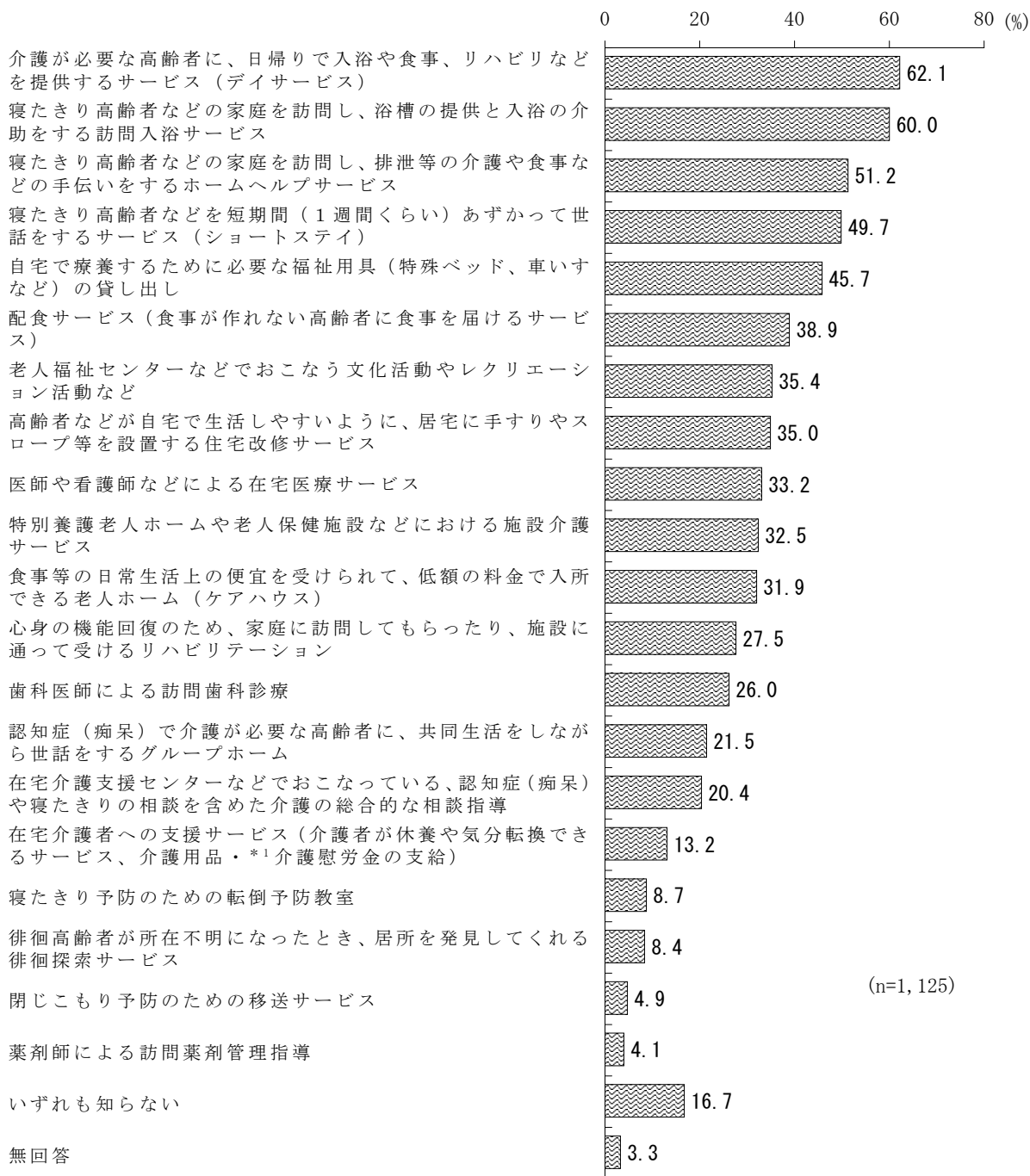


6. 保健・医療・福祉サービス

6-1 各保健・医療・福祉サービスの認知

問19 あなたは次のような保健・医療・福祉サービスを知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

図6-1 各保健・医療・福祉サービスの認知

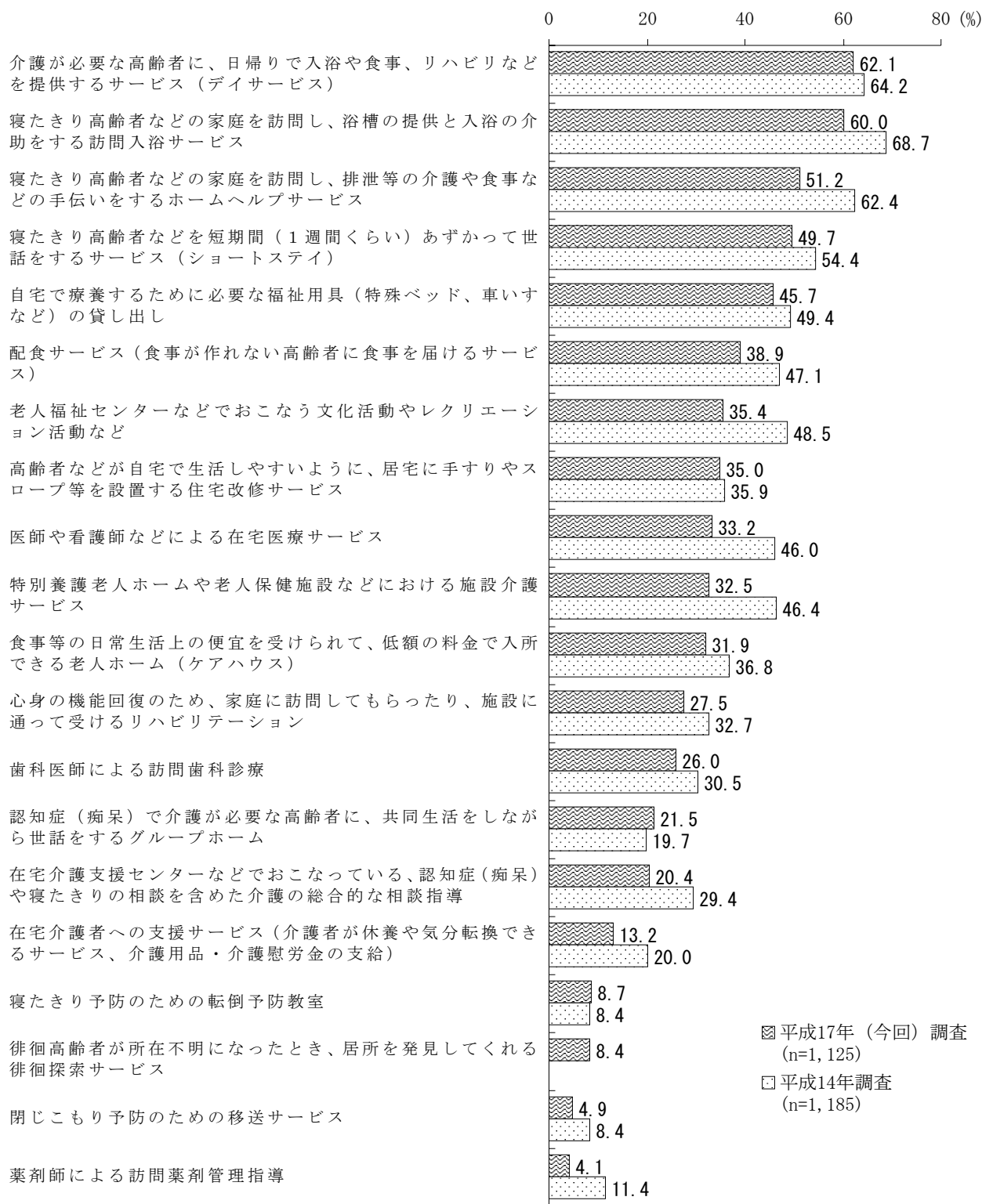


*1: 介護慰労金: 介護保険による要介護の認定を受けたが、そのサービスを利用しない人を介護している人に支給する慰労金

保健・医療・福祉サービスの認知では、「介護が必要な高齢者に、日帰りで入浴や食事、リハビリなどを提供するサービス（デイサービス）」（62.1%）、「寝たきり高齢者などの家庭を訪問し、浴槽の提供と入浴の介助をする訪問入浴サービス」（60.0%）、「寝たきり高齢者などの家庭を訪問し、排泄等の介護や食事などの手伝いをするホームヘルプサービス」（51.2%）の3項目が半数を超え多くなっている。これに「寝たきり高齢者などを短期間（1週間くらい）あずかって世話をするサービス（ショートステイ）」（49.7%）と「自宅で療養するために必要な福祉用具（特殊ベッド、車いすなど）の貸し出し」（45.7%）が4割台で続いている（図6-1）。

経年比較でみると、ほとんどの項目で前回調査（平成14年）から認知度が減少している。特に「特別養護老人ホームや老人保健施設などにおける施設介護サービス」で13.9ポイント、「老人福祉センターなどでおこなう文化活動やレクリエーション活動など」で13.1ポイント、「医師や看護師などによる在宅医療サービス」で12.8ポイントと大きく減少している（図6-2）。

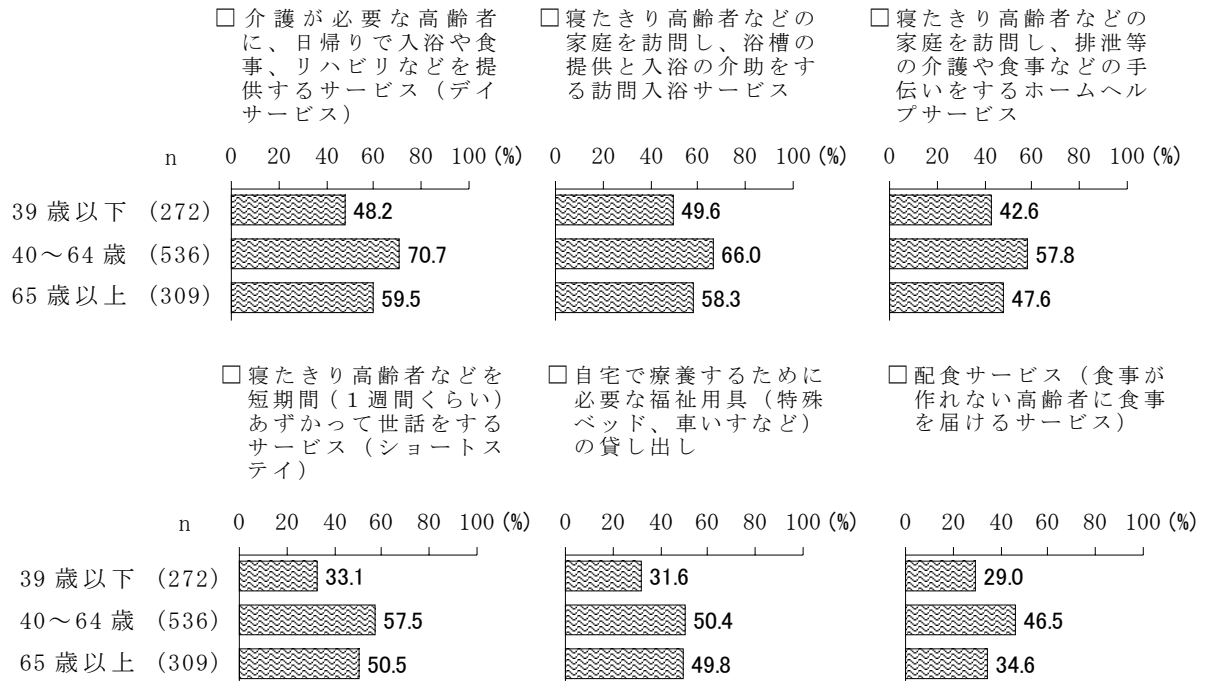
図6-2 経年比較 各保健・医療・福祉サービスの認知



* 今回の調査では、「徘徊高齢者が所在不明になったとき、居所を発見してくれる徘徊探索サービス」が新たに選択肢に加えられた

年齢別（3段階）にみると、各サービスで40～64歳の認知度が最も高く、「介護が必要な高齢者に、日帰りで入浴や食事、リハビリなどを提供するサービス（デイサービス）」で7割、「寝たきり高齢者などの家庭を訪問し、浴槽の提供と入浴の介助をする訪問入浴サービス」で6割半ばとなっている（図6-3）。

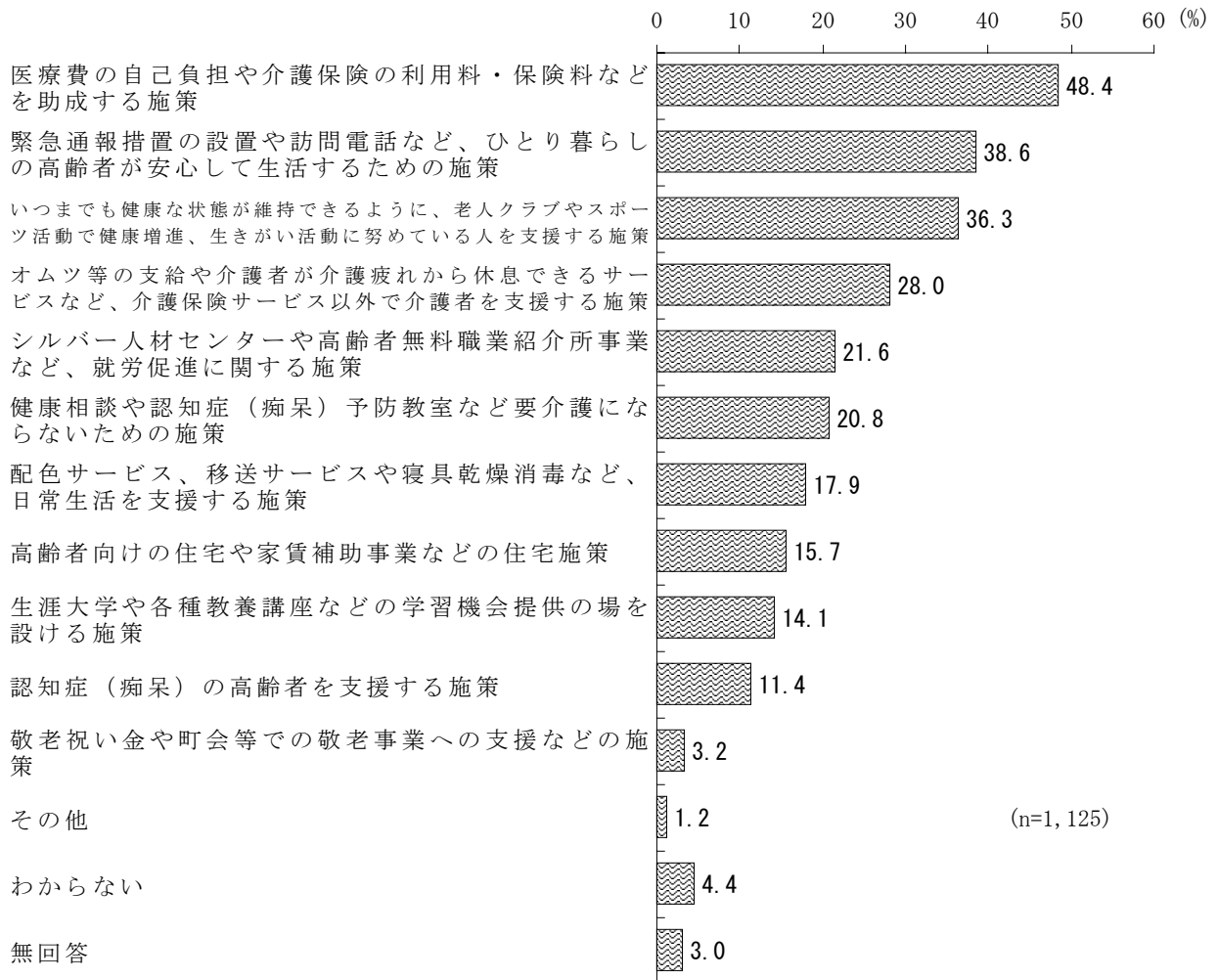
図6-3 年齢別（3段階） 各保健・医療・福祉サービスの認知（上位6項目）



6-2 充実すべき高齢者施策

問20 あなたは今後どのような高齢者施策を充実すべきだと思いますか。
(○は3つまで)

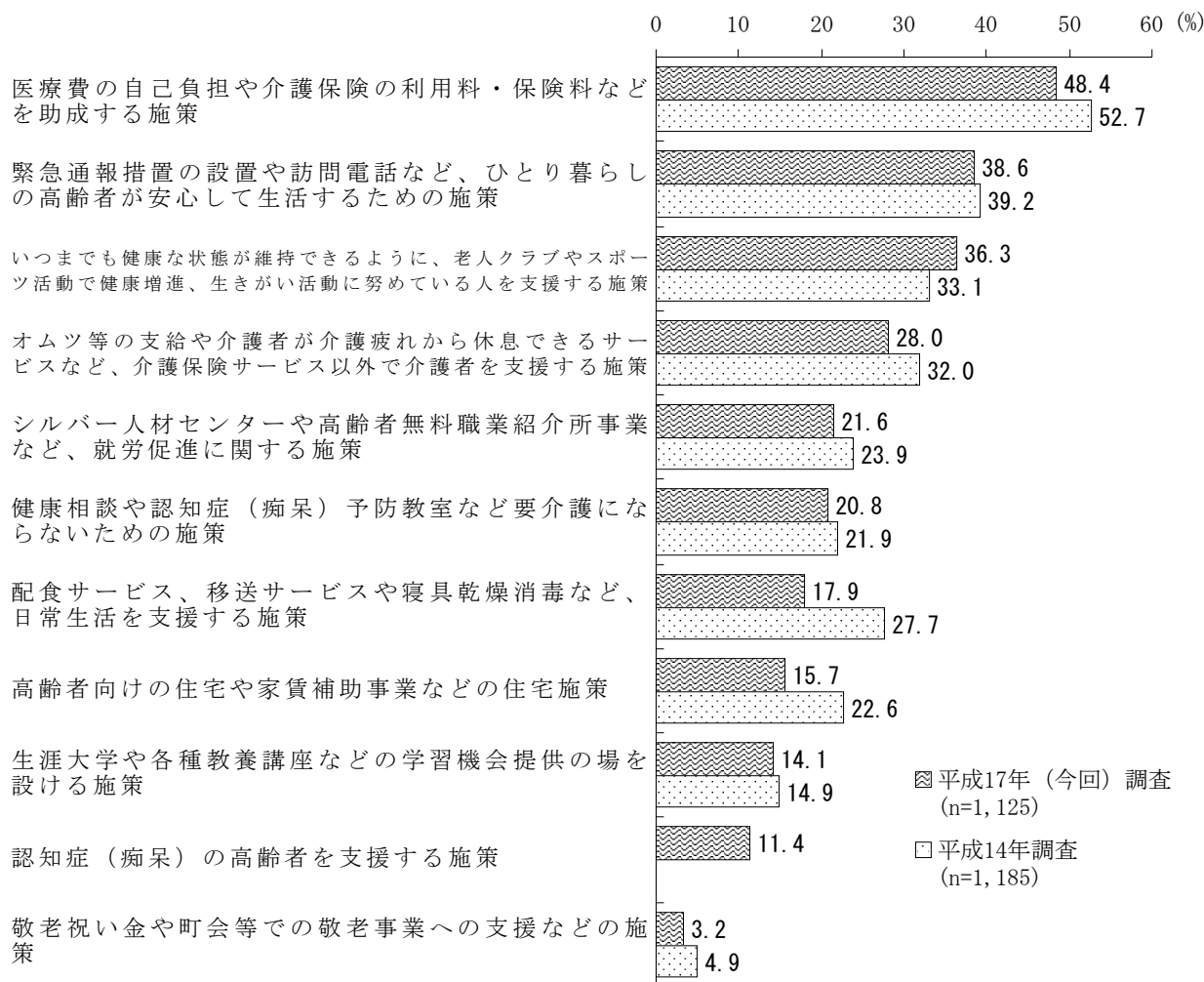
図6-4 充実すべき高齢者施策



今後、充実すべきだと思う高齢者施策では、「医療費の自己負担や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策」が48.4%で最も多くなっている。これに「緊急通報措置の設置や訪問電話など、ひとり暮らしの高齢者が安心して生活するための施策」（38.6%）と「いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策」（36.3%）の2項目が3割台で続いている（図6-4）。

経年比較でみると、前回から順位に大きな変化はみられない。「配食サービス、移送サービスや寝具乾燥消毒など、日常生活を支援する施策」(9.8ポイント減)と「高齢者向けの住宅や家賃補助事業などの住宅施策」(6.9ポイント減)では前回に比べて大きく減少している(図6-5)。

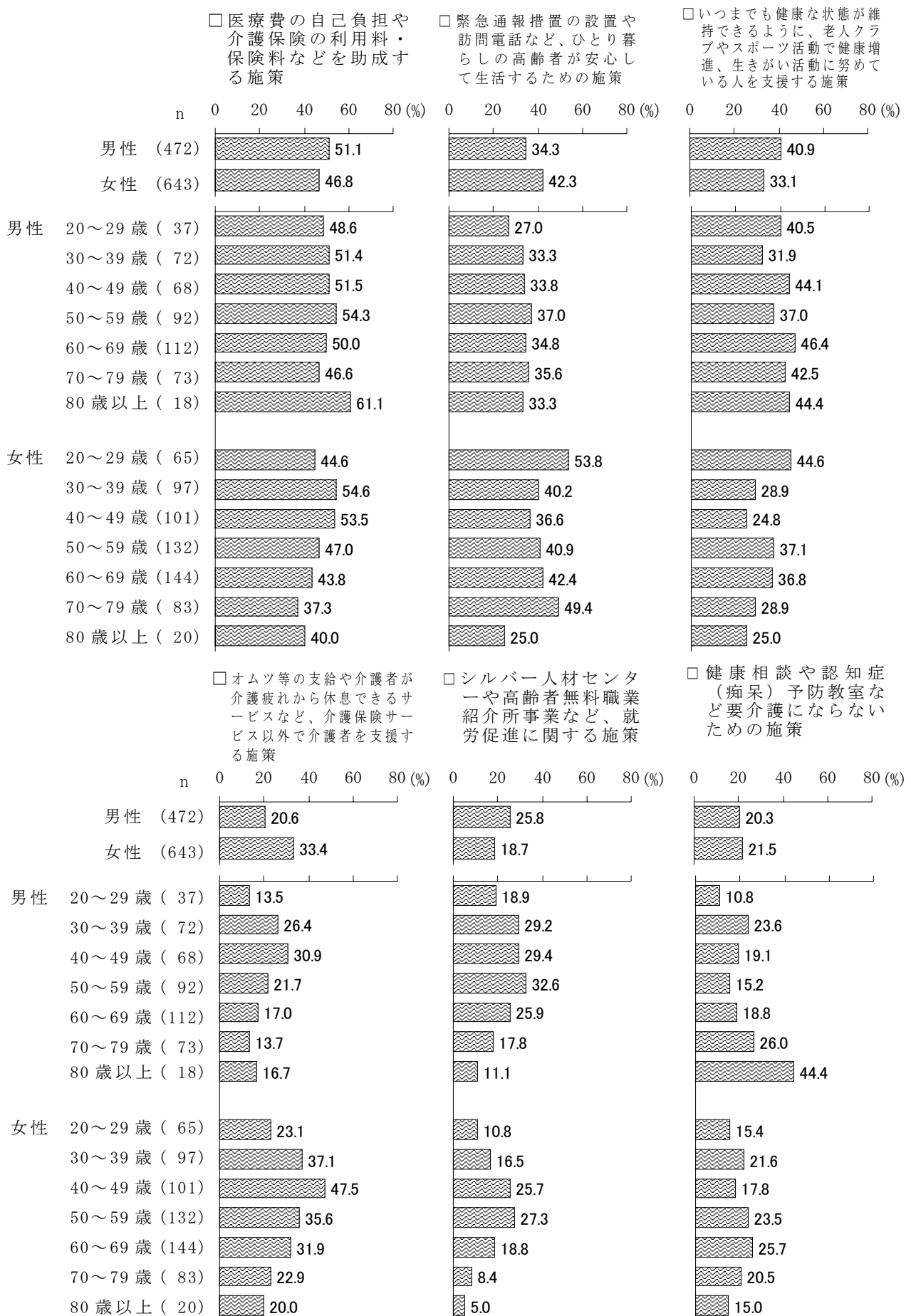
図6-5 経年比較 充実すべき高齢者施策



* 今回の調査では、「認知症(痴呆)の高齢者を支援する施策」が新たに選択肢に加えられた

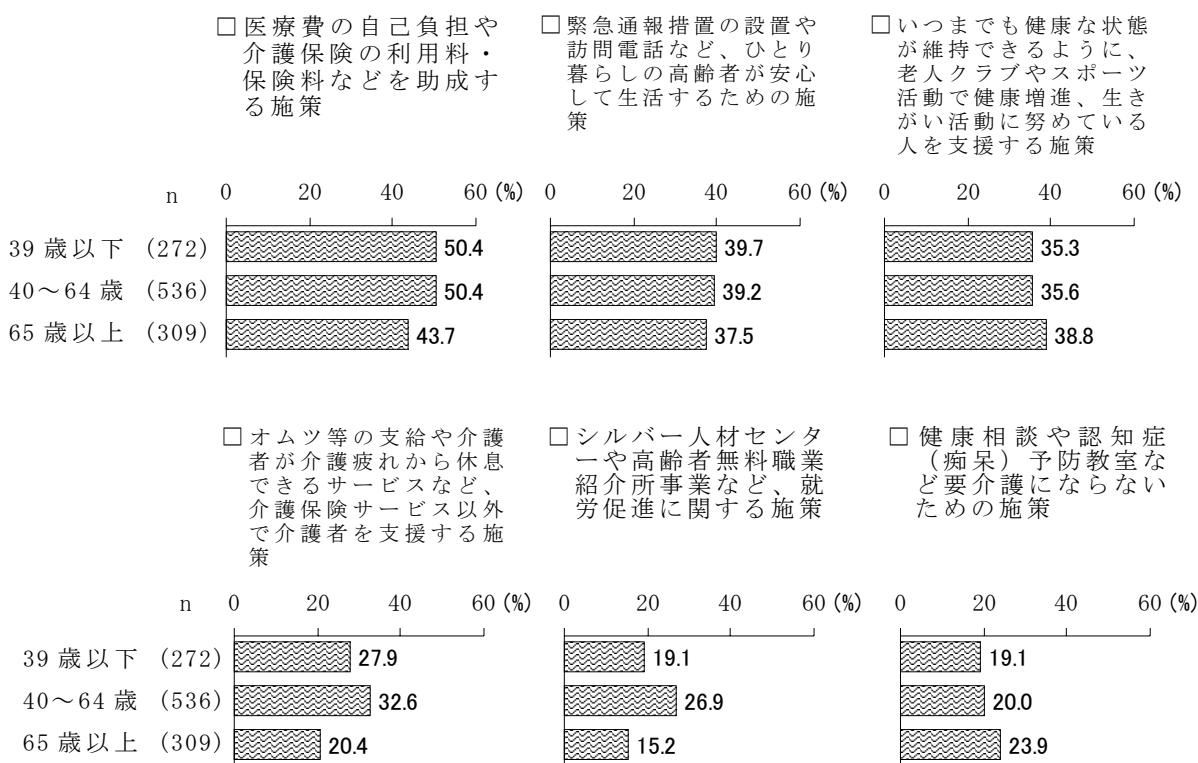
性・年齢別でも比較的共通しており、きわだった傾向はみられない。「シルバー人材センターや高齢者無料職業紹介所事業など、就労促進に関する施策」は男性30歳代から50歳代で比較的多いが、当の高齢者からはあまりあげられていない(図6-6)。

図6-6 性別、性・年齢別 充実すべき高齢者施策（上位6項目）



年齢別（3段階）にみると、39歳以下と40～64歳は「医療費の自己負担や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策」で半数となっている。40～64歳は「オムツ等の支給や介護者が介護疲れから休息できるサービスなど、介護保険サービス以外で介護者を支援する施策」で3割、「シルバー人材センターや高齢者無料職業紹介所事業など、就労促進に関する施策」で2割半ばと高い。65歳以上は「いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策」と「健康相談や認知症（痴呆）予防教室など要介護にならないための施策」で最も高くなっている（図6-7）。

図6-7 年齢別（3段階） 充実すべき高齢者施策（上位6項目）

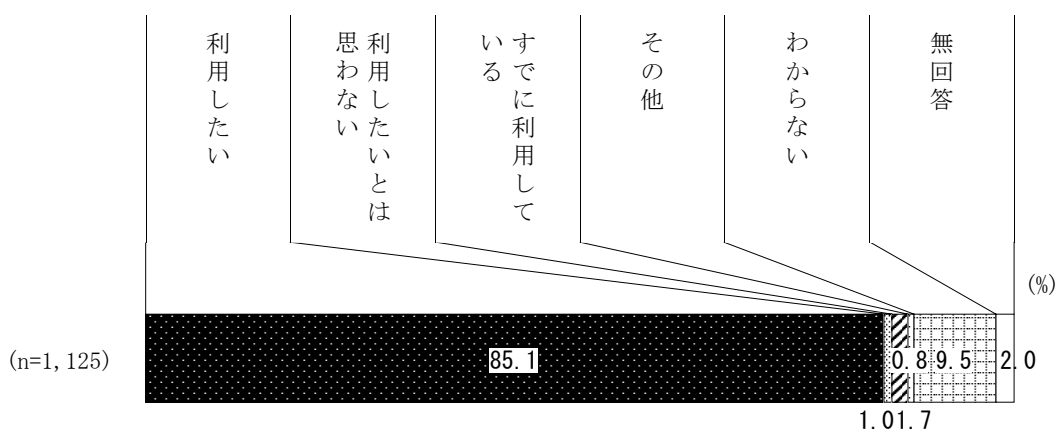


7. 介護保険制度とそれに関係する事柄についての考え

7-1 介護保険制度の利用意向

問21 かりに、あなた自身やあなたの家族が介護保険による介護サービスが必要になったとき、介護保険制度を利用したいと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

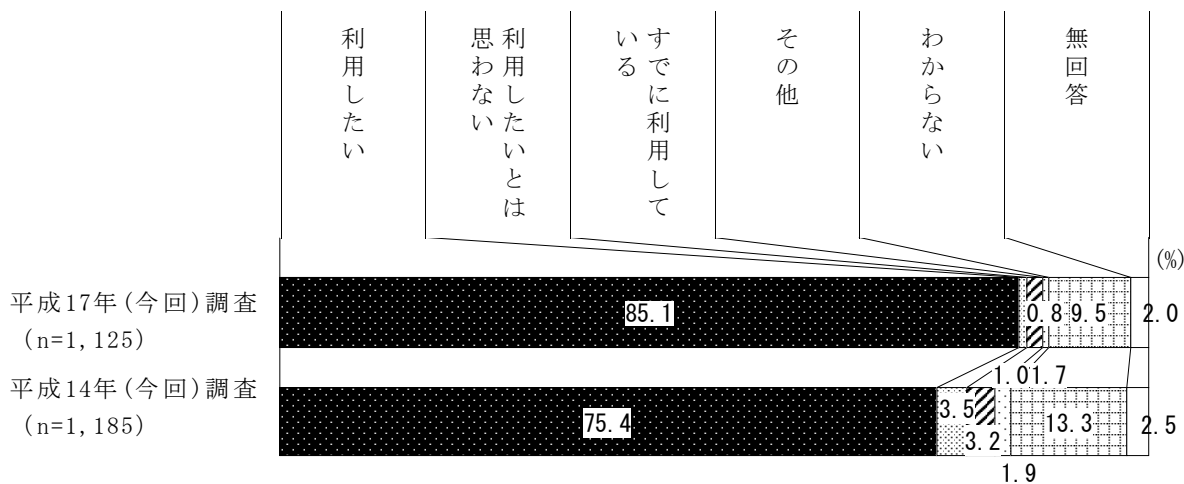
図7-1 介護保険制度の利用意向



介護保険制度の利用意向では、「利用したい」が85.1%を占めており、「すでに利用している」は1.7%である。また「わからない」は9.5%である（図7-1）。

経年比較でみると、「利用したい」は、前回調査（平成14年）から、9.7ポイント上昇し、「利用したいと思わない」は2.5ポイント減少している（図7-2）。

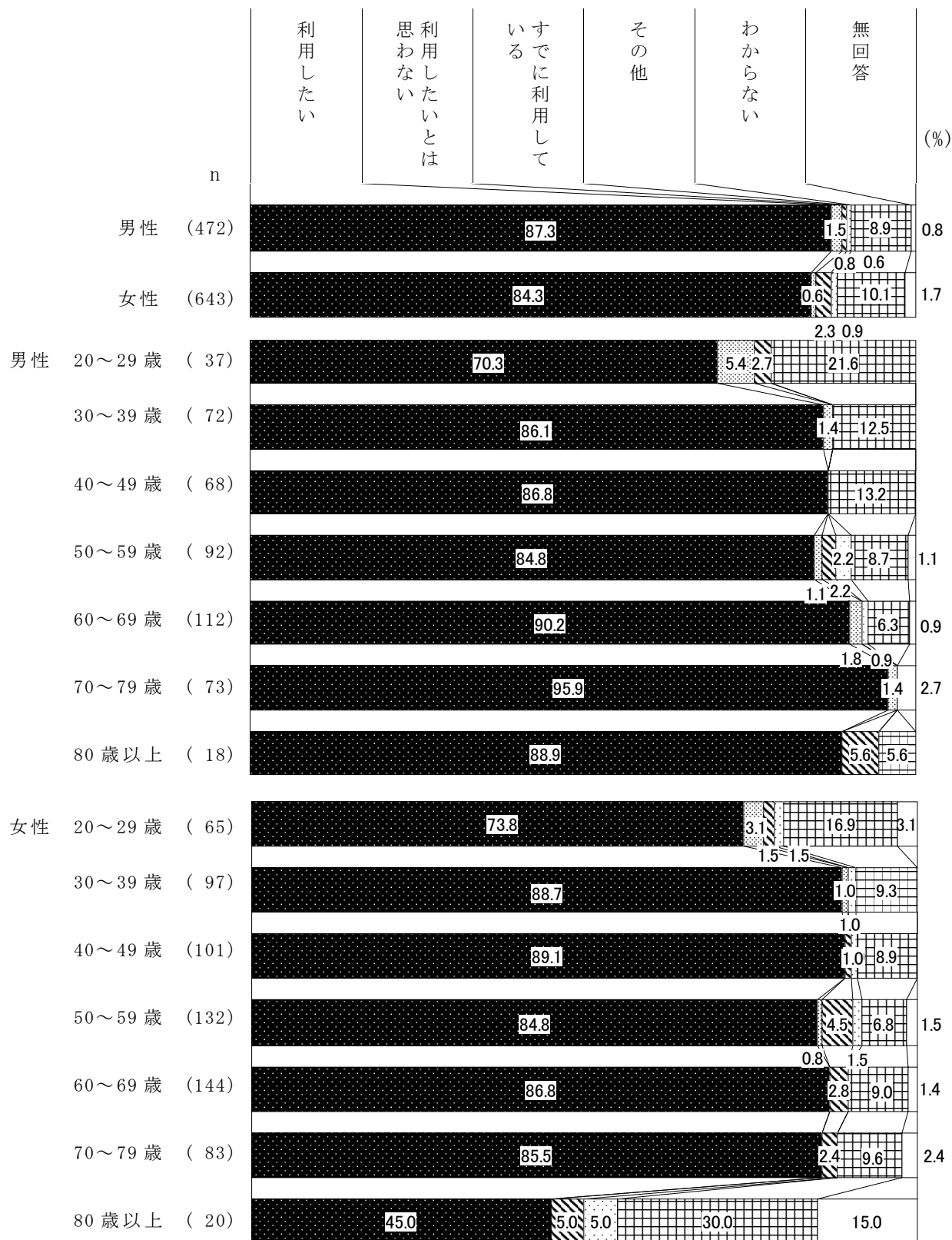
図7-2 経年比較 介護保険制度の利用意向



性別で見ると、「利用したい」は男女とも8割を超える（図7-3）。

性・年齢別で見ると、どの年代でも「利用したい」は多くなっているが、男性の60・70歳代で9割以上、女性の30・40歳代で9割弱と特に多くなっている（図7-3）。

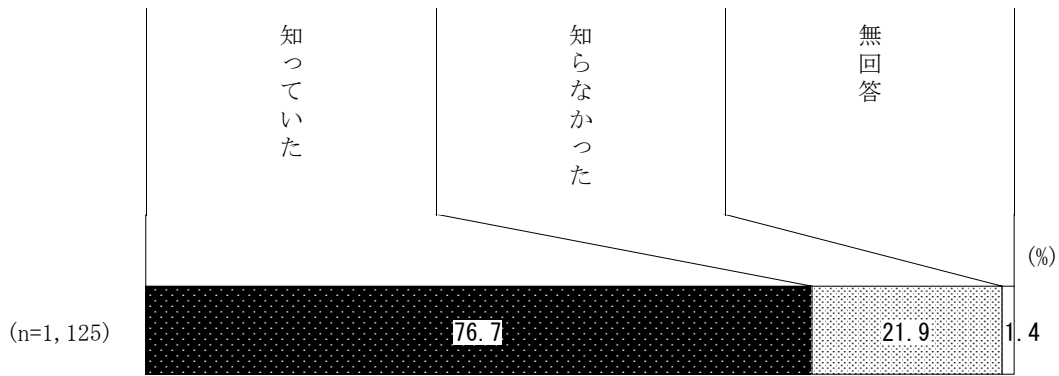
図7-3 性別、性・年齢別 介護保険制度の利用意向



7-2 介護保険料納付年齢の認知

問22 介護保険料は40歳以上の方が負担する仕組みですが、そのことをあなたはご存知でしたか。(○は1つ)

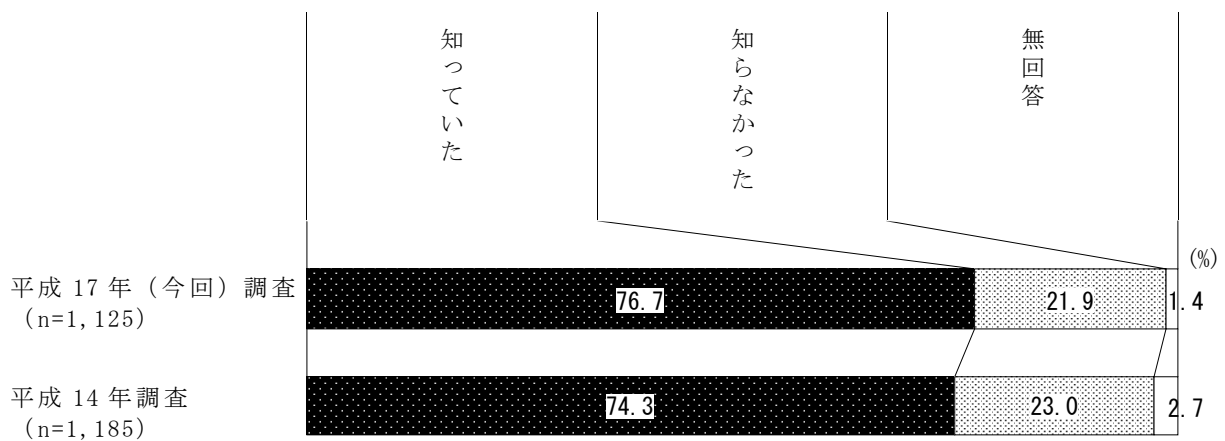
図7-4 介護保険料納付年齢の認知



介護保険料納付年齢を「知っていた」は76.7%となっている（図7-4）。

経年比較でみると、前回調査より「知っていた」がやや増加している（図7-5）。

図7-5 経年比較 介護保険料納付年齢の認知

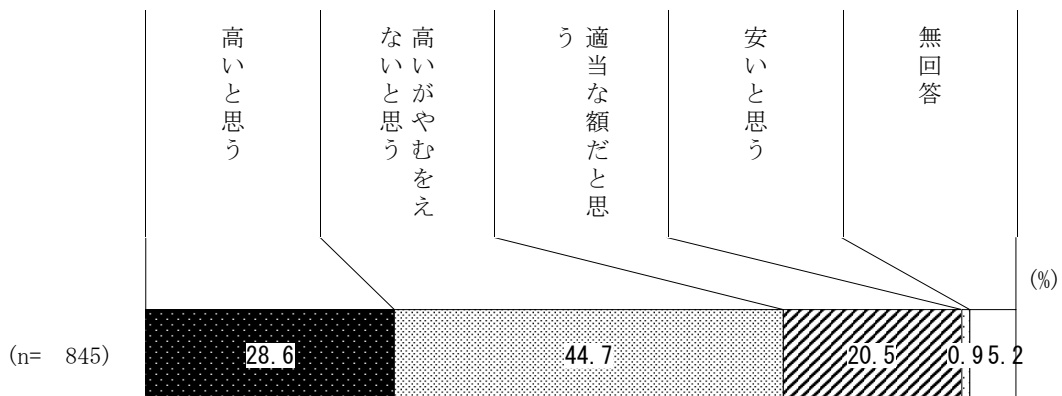


7-3 介護保険料の負担についての意識

【40歳以上の方におたずねします。】

問23 あなたは、負担している介護保険料についてどのようにお感じになりますか。(〇は1つ)

図7-6 介護保険料の負担についての意識



介護保険料の負担については、「高いがやむをえないと思う」が44.7%と最も多く、次いで「高いと思う」が28.6%、「適当な額だと思う」が20.5%となっている。一方、「安いと思う」は1%に満たない(図7-6)。

性・年齢別にみると、介護保険料を「適当な額だと思う」人は、男性では約2~3割、女性では1~2割にとどまる。「高いと思う」人は男性の70歳代、女性の60歳以上で3割に達する。また、「高いがやむをえないと思う」人は、男性の60歳代と80歳以上、女性の40歳代、60歳代で5割前後となっている(表7-1)。

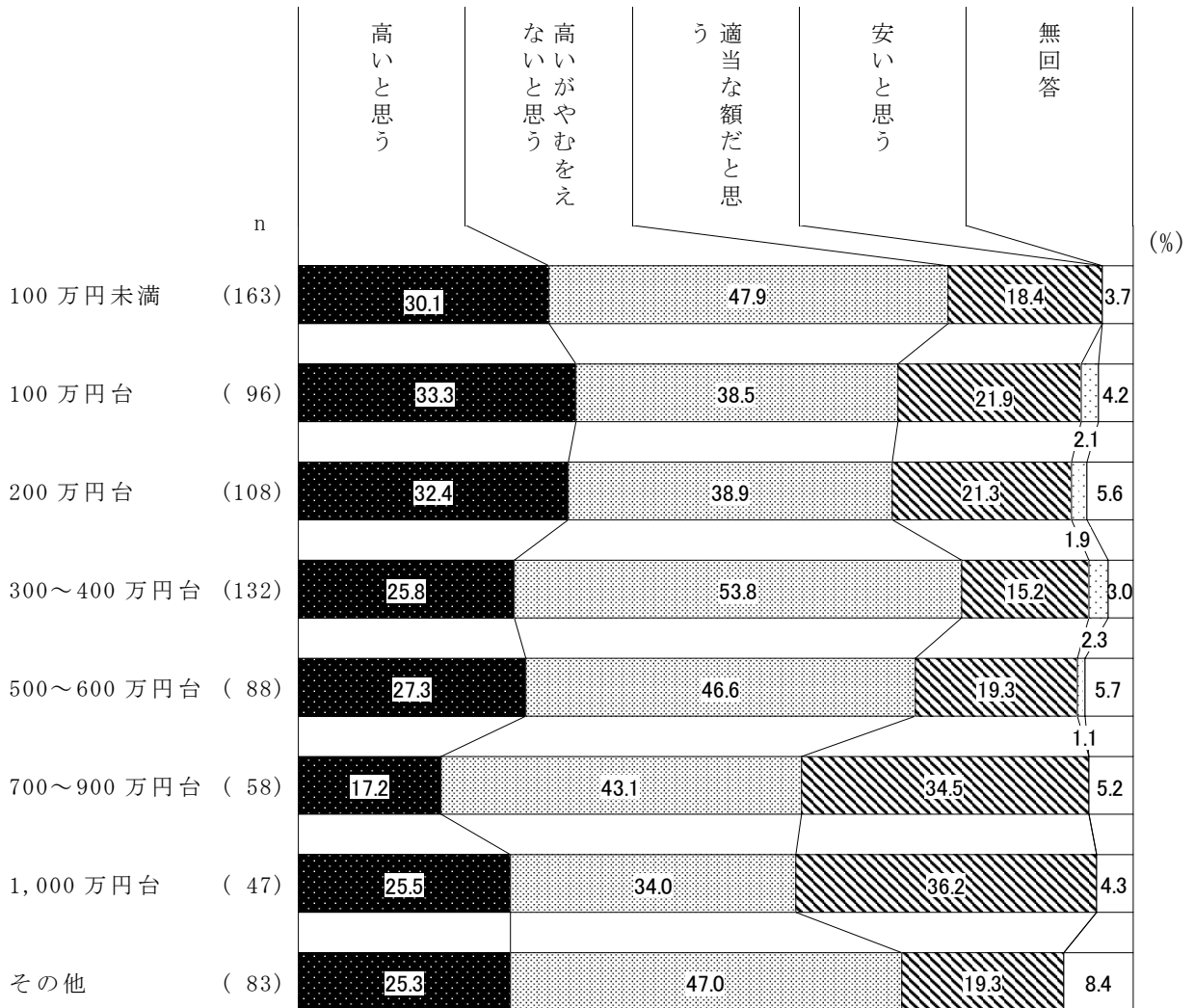
表7-1 年齢別 介護保険料の負担についての意識

		n	高いと思う	高いがやむをえないと思う	適当な額だと思う	安いと思う	無回答
男性	40~49歳	68	30.9	36.8	23.5	1.5	7.4
	50~59歳	92	28.3	40.2	28.3	-	3.3
	60~69歳	112	24.1	49.1	21.4	1.8	3.6
	70~79歳	73	31.5	43.8	19.2	1.4	4.1
	80歳以上	18	16.7	50.0	33.3	-	-
女性	40~49歳	101	25.7	50.5	18.8	2.0	3.0
	50~59歳	132	25.0	40.9	24.2	0.8	9.1
	60~69歳	144	31.9	52.8	12.5	-	2.8
	70~79歳	83	36.1	36.1	19.3	1.2	7.2
	80歳以上	20	30.0	45.0	10.0	-	15.0

市民アンケート調査結果

年収別にみると、「高いと思う」はほとんどの年収で2割以上となっているが、200万円台以下の層では3割台となっている。「高いがやむをえないと思う」は、300～400万円台で5割以上、500～600万円台で4割半ばとなっている。また、「適当な額だと思う」は700～900万円台、1000万円以上で3割半ばを超える（図7-7）。

図7-7 年収別 介護保険料の負担についての意識



8. 自由意見

今後の高齢社会について意見をうかがったところ、750件の貴重な意見をいただいた。1人で2つ以上の内容を回答している場合もあるため、延べの件数となる。

介護保険制度

52件

・ 不平等、不公平が感じられるため、制度を見直し、よりよくしてほしい	17
・ 少ない収入から介護保険料を支払うのは苦しい	9
・ 認定者もモラルをもって利用をするべきだ	7
・ 利益追求だけのビジネスになることのないよう事業所の評価、監視に努めてほしい	6
・ サービスや福祉に支えられて助かっている。	4
・ 財源が不足することのないよう、現状の保険料徴収体制を改善する必要がある	4
・ 介護保険制度に使われる支出が不透明だ	2
・ サービスの利用料金が高い	1
・ 介護認定の更新期間はもう少し長めにとってほしい	1
・ 介護保険料段階区分の見直しをしてほしい	1

サービス

62件

・ 施設サービスの充実や、待たずに入所できるよう施設をつくってほしい	38
・ 各種のサービスの充実をしてほしい	10
・ 人員の確保が必要であり、困難であれば外国人労働者の活用も視野に入れてほしい	5
・ 介護に携わる人は心をこめてサービスにあたってほしい	3
・ リハビリ施設の増設をしてほしい	2
・ サービス利用時の手続きを簡単にしてほしい	2
・ 緊急通報システムの設置をしてほしい	1
・ 成年後見制度の充実をしてほしい	1

福祉一般

135件

・ 高齢者をはじめとした市の福祉行政の充実をしてほしい	63
・ 高齢者や社会弱者にとって、やさしい住みやすいまちをつくってほしい	18
・ 他の国や自治体のよいところを取り入れ、他に誇れるような福祉行政になることを期待する	12
・ 介護はまず家族がみるのが基本であり、幼い頃からの教育が大事だ	10
・ 高齢者福祉より少子化対策に目を向けてほしい	9
・ 自立のための支援策を検討してほしい	9
・ 適度なバランスで福祉を提供すべきであり、過剰になりすぎないように	6

市民アンケート調査結果

・多種多様な個々の状況に柔軟に応じられるようにしてほしい	5
・もっと前から高齢社会について考える必要があったと思う	2
・介護者のケアを実施してほしい	1

行政

56件

・ひとり暮らし高齢者に対するケアが必要だ	20
・暮らしていくのがやっとなので、これ以上年金を減額しないでほしい	12
・税金が高い。有効に使われることを願う	7
・医療費や税金等、高齢になるほど支払いが多くて生活ができるか心配だ	4
・学校の空き教室利用など既存施設の再利用	3
・市の職員、議員の削減によるコスト削減が必要だ	3
・介護の方法、高齢社会を迎えるにあたって、などの講座を実施してほしい	2
・職員は親身な対応をしてほしい	1
・土日などの対応も行ってほしい	1
・青少年の教育に力を入れてほしい	1
・介護は重労働なので、携わる人々への報酬は十分に上げてほしい	1
・低金利政策の見直しが必要だ	1

保健・医療

108件

・できるだけ自分でできる範囲のことをするなどして体を動かし、これ以上悪くならないよう自助努力もするべきだ	46
・寝たきりや認知症にならないための予防施策を検討してほしい	31
・医療費が高いので、補助や軽減をしてほしい	11
・高齢者のための運動施設をつくってほしい	6
・延命治療の拒否や尊厳死など、自分の最後は自分で選びたい	6
・市内の医療機関の充実をしてほしい	5
・健康であることがどんなに大事か感謝したい	2
・健康診断に骨密度、骨量検査も加えてほしい	1

情報・相談

58件

・各種メディアを利用した積極的なサービスのPRをしてほしい	26
・高齢者に対してどのような福祉があるのか情報提供をしてほしい	17
・相談体制の充実をしてほしい	9
・訪問相談の実施をしてほしい	3
・いまだに高齢者や社会には、介護サービスを利用することへの偏見があるようなので、これを解消できるよう周知・理解をすすめてほしい	3

移動・交通

14件

・循環バスやコミュニティバスの充実をしてほしい	4
・タクシー券の配布や交通費の補助をしてほしい	4
・市内交通網の整備をしてほしい	2
・高齢者の交通教室の実施をしてほしい	2
・ノンステップバスの普及をしてほしい	1
・外出の支援をするサービスがあるとよい	1

まちづくり

74件

・安心して歩ける道路・歩道の整備をしてほしい	25
・駅に昇降機（特に下り）を設置してもらえよう働きかけてほしい	17
・災害や犯罪が心配なので、その対策を十分にしてほしい	9
・バリアフリーに徹したまちづくりの推進をしてほしい	6
・憩いの場となる公園や身体を動かせる公園をつくってほしい	5
・街灯を多く設置してほしい	4
・町の景観や環境美化が不足している	3
・公衆トイレの増設をしてほしい	2
・古い駅の改修をしてもらえるよう働きかけてほしい	2
・視聴覚障害者のための表示やアナウンスを至る所で徹底してほしい	1

交流・活動

117件

・世代間で交流のできる機会や場があることが望ましい	24
・ボランティア等奉仕活動への参加のきっかけづくり・意識啓発をしてほしい	22
・高齢者同士が気軽に集まることのできる機会や場の提供をしてほしい	17
・退職した高齢者などを地域の資産として活用するべきだ	16
・地域の住民が高齢者を見守るシステムを確立してほしい	15
・最近失われつつある隣近所の人々との交流ができるような推進、契機づくりをしてほしい	10
・文化施設等の増設など生きがいにつながる場や機会を提供してほしい	8
・ボランティア、NPO等の団体への支援を行ってほしい	4
・ボランティア時間預託制度の導入をしてほしい	1

就労・住居

40件

・高齢者に働く場の紹介等、雇用機会を増やしてほしい	21
・安価に入所できる高齢者用の施設、公営住宅を充実してほしい	17
・60歳を定年とする風潮の改善をしてほしい	1
・二世帯、三世帯住宅建築の推進をしてほしい	1

市民アンケート調査結果

アンケートに対する意見

7件

・今回の調査によって、今後真剣に考えてみようと思った	4
・調査結果を施策に反映してほしい	2
・紙ではなく、ヒアリングで調査を実施するべきだと思う	1

その他

27件

・まだ実感がないが、今後いろいろ考えてみたい	13
・この先の生活が不安だ	9
・今後利用してみたい	3
・その他	2